

男女共同参画社会に関する 町民意識調査報告書

令和4年10月
大山崎町

目次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1

II 調査結果

1 調査回答者の属性	
（1）性別	2
（2）年齢	2
（3）家族構成	2
（4）職業	2
2 家庭生活等に関する意識について	3
（1）性別役割分担意識	3
（2）男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要と考えること	7
（3）家事・育児・介護の理想の役割分担	9
3 仕事について	11
（1）女性が職業をもつことに対する意識	11
（2）男女の対等な就労促進に必要なこと	12
4 人権について	14
（1）女性の人権が尊重されていないと感じること	14
（2）DV 被害の経験及び内容	16
（3）LGBT に関する認知度	17
（4）LGBT に対する反応	18
（5）生理用品を買うのに困ったことがある経験	19
（6）生理について世の中への不満	20
（7）フェムテックの認知度	21
5 男女共同参画社会に関する意識について	22
（1）男女の地位の平等感	22
（2）「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと	25
（3）男女共同参画社会づくりの重点施策	26
6 大山崎町の男女共同参画社会づくりに関する意見	29

I 調査の概要

1 調査目的

大山崎町では、昭和59年に男女共同参画に係る最初の計画である「婦人の地位向上と福祉の増進を図る大山崎町行動計画」を策定しました。その後、策定を重ね、さまざまな取組を進めてまいりました。

この度、「大山崎町第3次男女共同参画計画～みとめ愛プラン～」の計画期間終了に伴い、社会情勢の変化や課題等を踏まえ、「大山崎町第4次男女共同参画計画～みとめ愛プラン～」を策定します。

そこで、男女共同参画に関する町民の皆様の意識や実態を把握し、基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

項目	内容
調査地域	大山崎町全域
調査対象	大山崎町在住の18歳以上
調査数	800件
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和4年8月29日～9月16日

3 回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率
800件	277件	34.6%

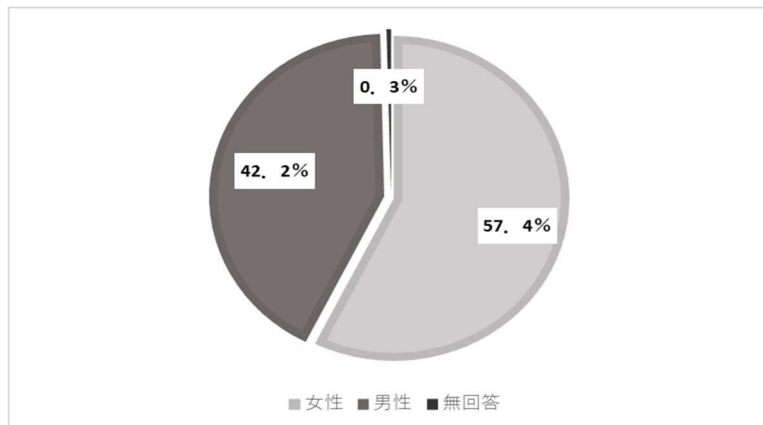
4 報告書の見方

- ・図表中のNとは、回答者総数（または該当質問での該当者数）のことです。
- ・集計は、小数点第2位を四捨五入しています。
- ・回答の比率（％）は、該当質問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の場合は、すべての比率を合計すると100％を超えることがあります。

Ⅱ 調査結果

1 調査回答者の属性

(1) 性別



項目	人
女性	159
男性	117
無回答	1
合計	277

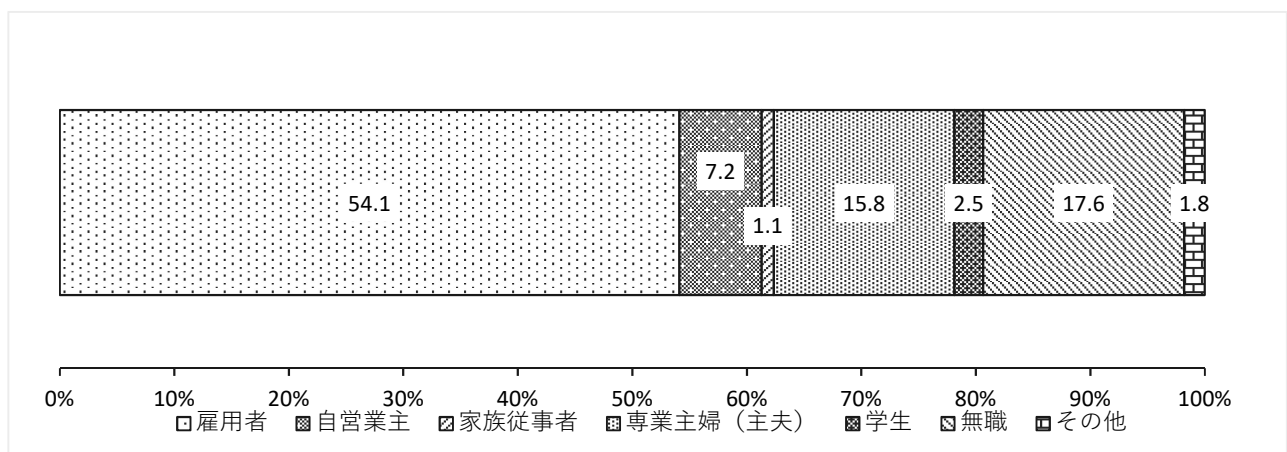
(2) 年齢

項目	人	構成比 (%)
18～29 歳	20	7.2
30～39 歳	48	17.3
40～49 歳	37	13.4
50～59 歳	51	18.4
60～69 歳	59	21.3
70 歳以上	59	21.3
無回答	3	1.1

(3) 家族構成

項目	人	構成比 (%)
ひとり暮らし	17	6.1
夫婦	104	37.5
親と子	150	54.2
その他	6	2.2

(4) 職業

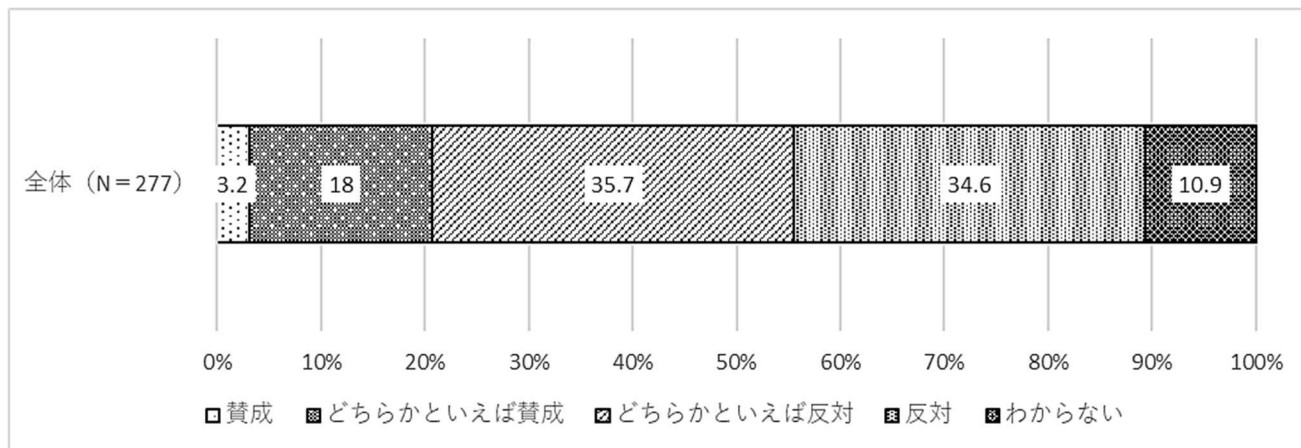


2 家庭生活等に関する意識について

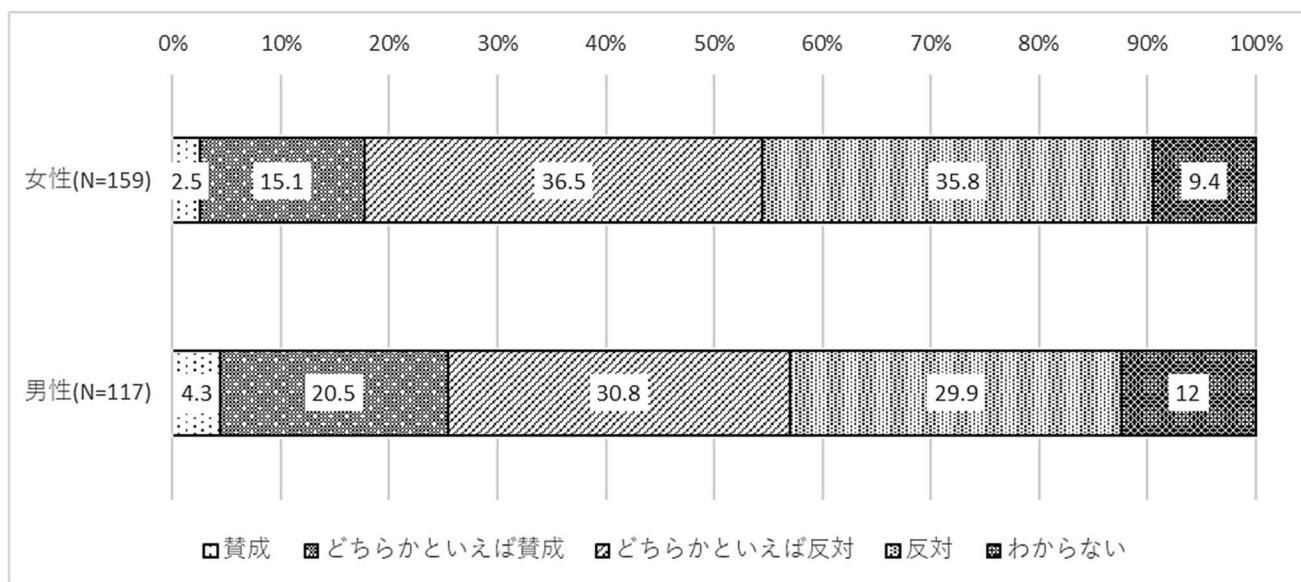
(1) 性別役割分担意識

Q1.「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。

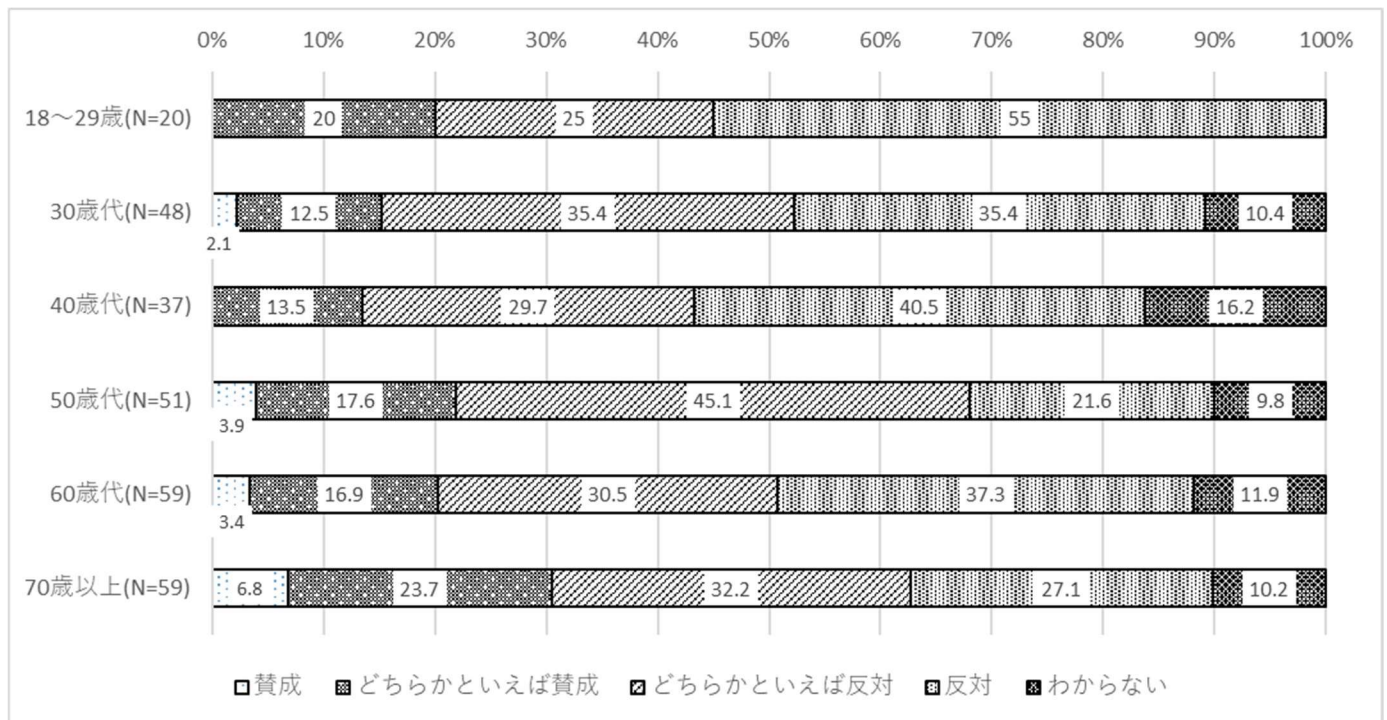
・「賛成」3.2%に対し、「反対」は34.6%と大きく差がひらきました。また、「どちらかといえば」を含めてみても、「賛成」＋「どちらかといえば賛成」21.2%に対し、「反対」＋「どちらかといえば反対」70.3%と、反対意見が大幅に多い結果となりました。



・性別では、どちらも反対意見が多いが、女性の方が男性に比べ、「反対」＋「どちらかといえば反対」が10%以上高くなっています。



・年代別では、反対意見（「反対」＋「どちらかといえば反対」）において、年代が上がるにつれ割合が低くなっています。

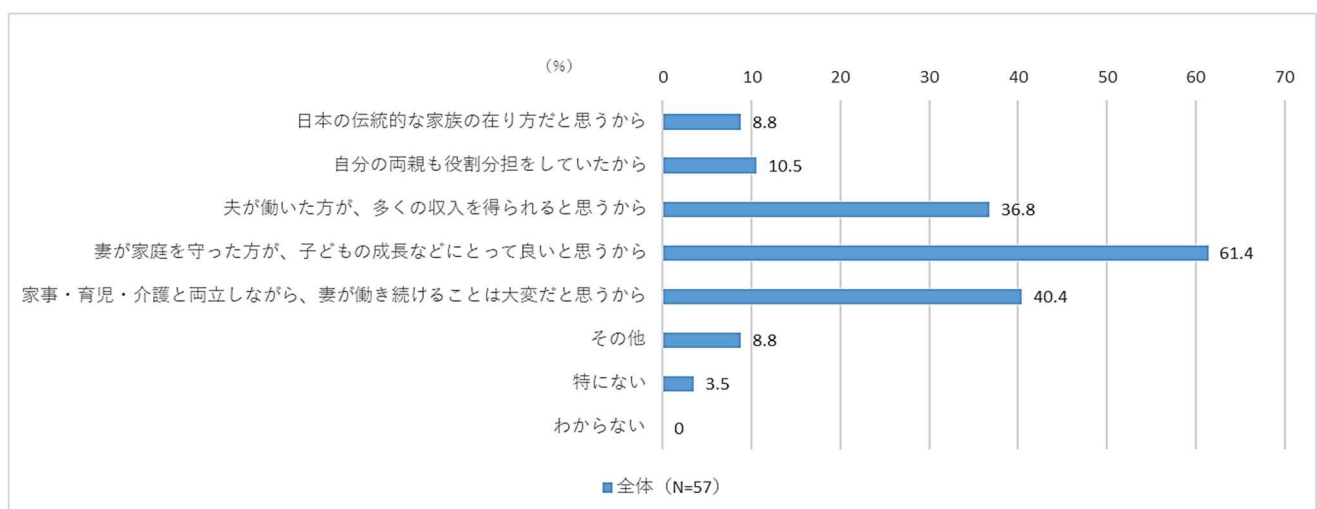


Q1－1.「賛成」「どちらかといえば賛成」を選んだ理由は何ですか。

・「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が61.4%で最多。次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が40.4%、「夫が働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が36.8%とこちらも比較的高い割合でした。

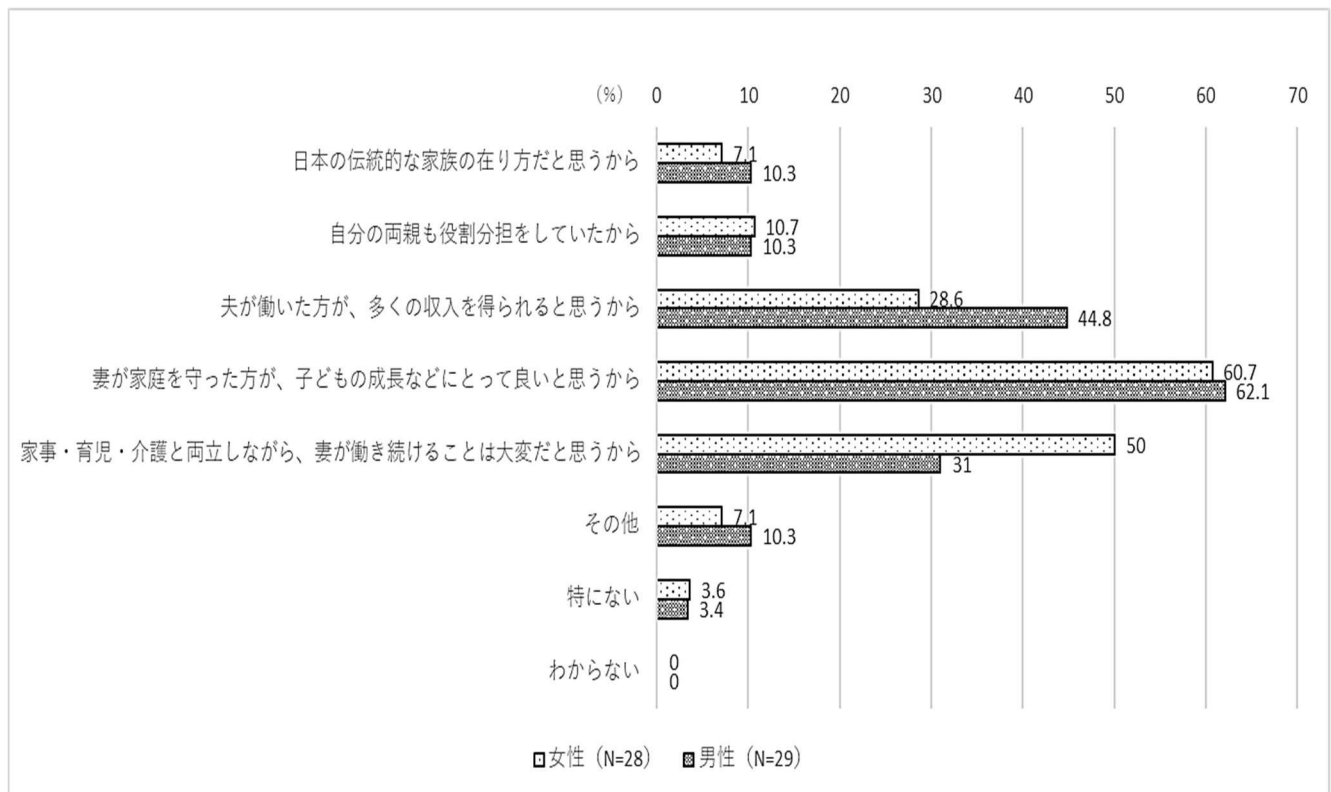
【その他の意見】

・社会全体がまだそのような風習が残っているから、今の時点では賛成。
 ・能力に男女の差はないが、身体的（生理など）には女性の方が負担があると思う。それにもかかわらず、無理矢理男性と同じようにすれば、本人や周囲が負担となり、結果的に非効率だと思う。など



・性別では、男女とも、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最多であるが、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合に差が生まれました。

女性では、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が60.7%で最多。次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が50%。それに対し、男性では、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が62.1%で最多。次いで「夫が働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が44.8%で、その次に「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が31%でした。

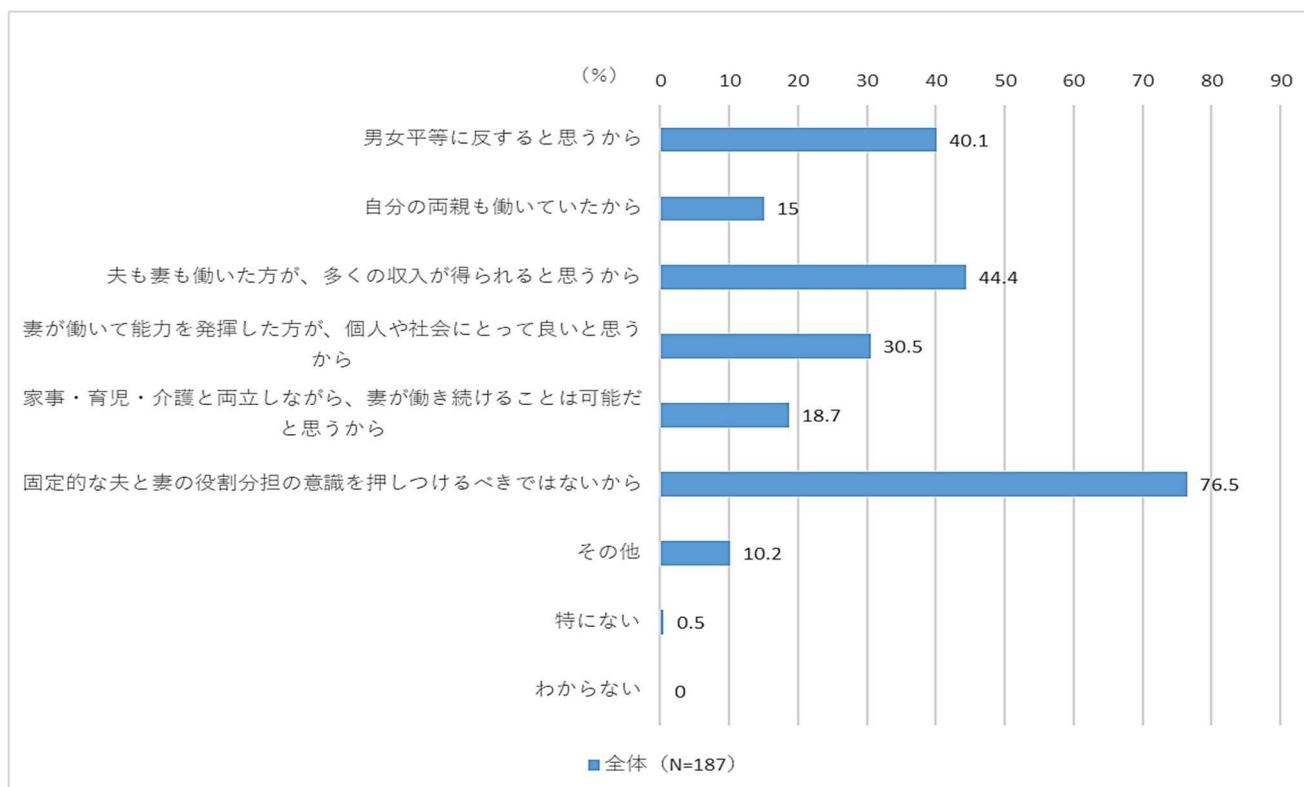


Q1-2. 「反対」「どちらかといえば反対」を選んだ理由は何ですか。

・「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が76.5%で最多。次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が44.4%。

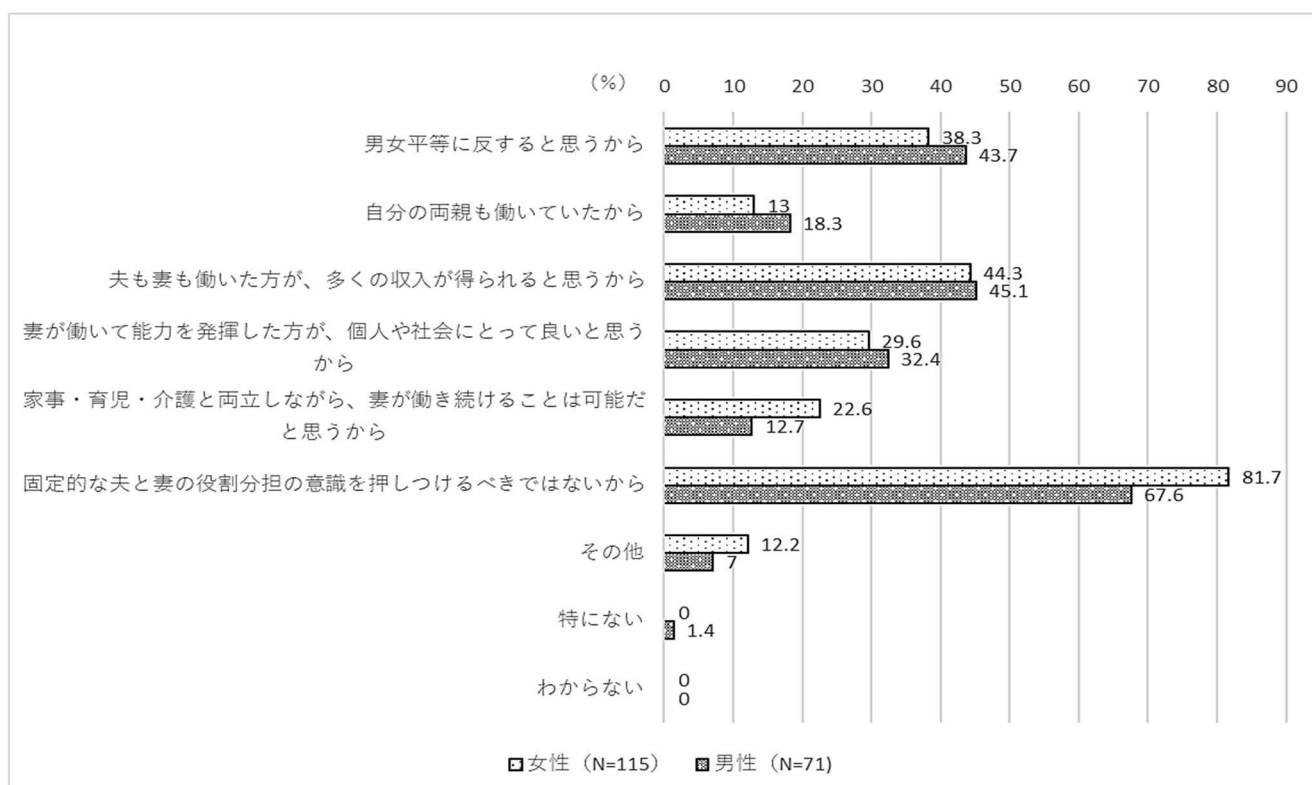
【その他の意見】

- ・自由。
- ・女性の働きたいという意欲を尊重すべき。
- ・子どもに対する責任は夫婦にあり、子育てが妻の役目という考え方はおかしい。 など



・性別では、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」及び「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の2つが男女比で 10%以上の差が生まれました。

・「夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから」については、男女共ほとんど同じ割合でした。



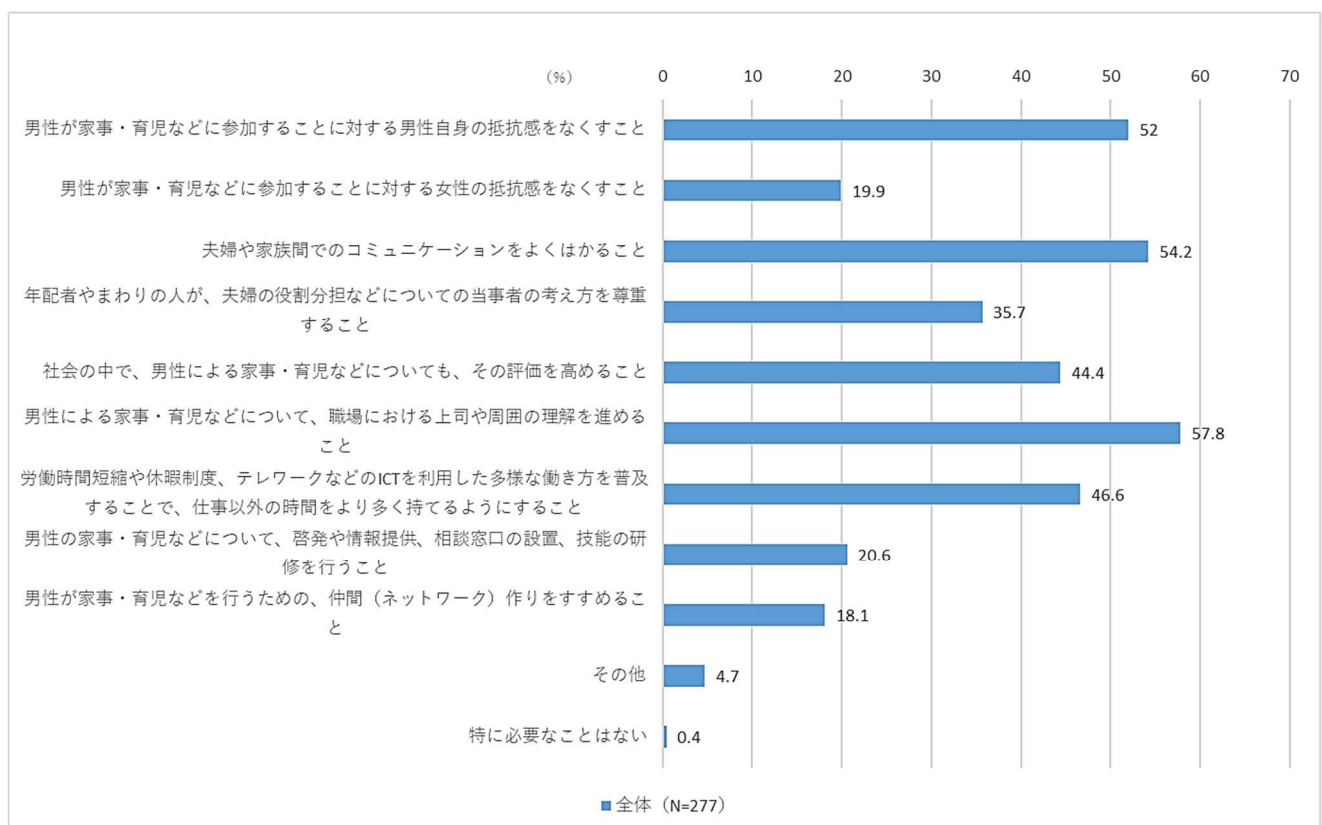
(2) 男性の家事・子育て・介護・地域活動への参加に必要と考えること

Q2. 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

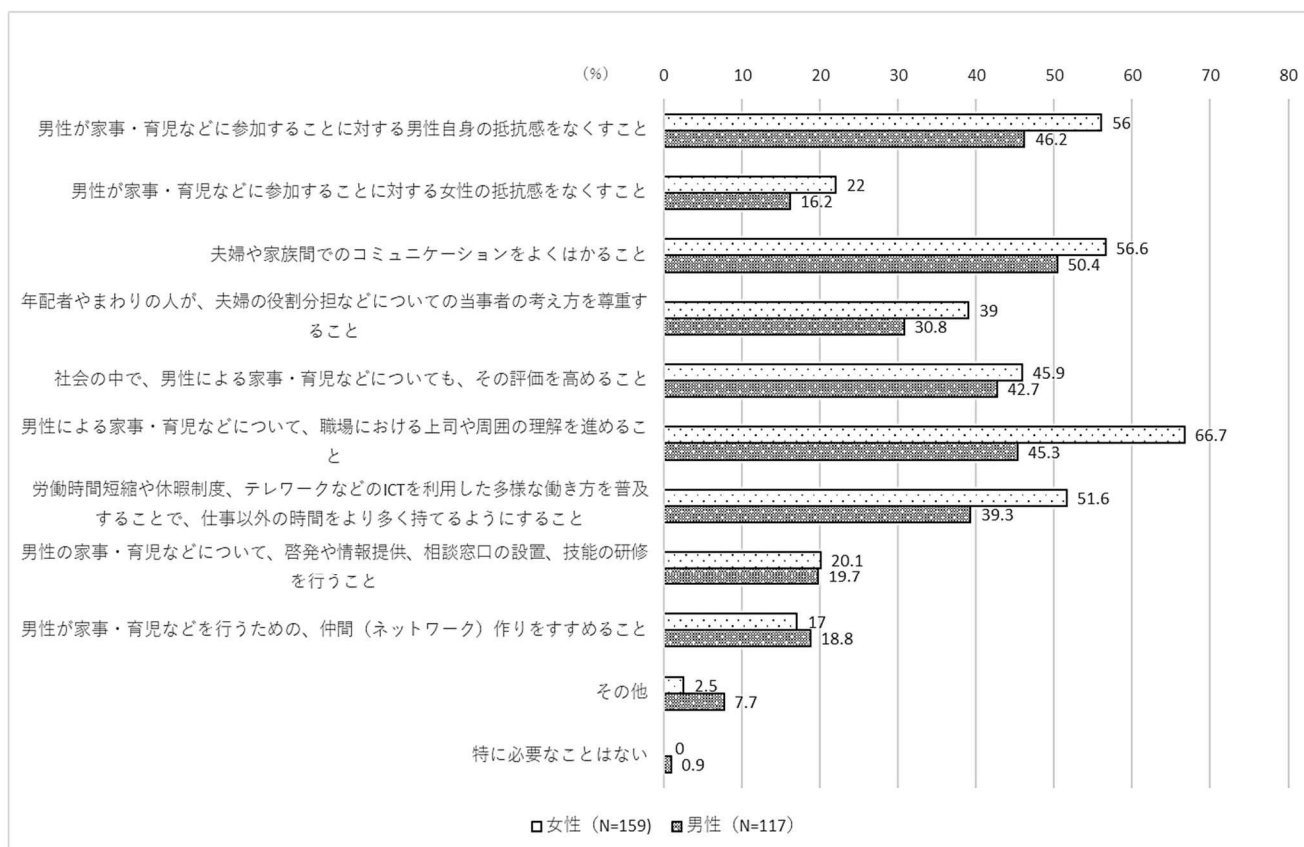
・次の3つの項目において、ほとんど同じ割合であり、なおかつ5割以上でした。「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が57.8%で最多。次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が54.2%。次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が52%でした。

【その他の意見】

・子どものときからの教育に組み込み、苦手意識を感じさせないこと。 など



・性別では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が男女共に5割以上でした。
・男女比で最も差が生まれたのは、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」であり、21.4%の差がありました。



・年代別では、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」において、30 歳代及び 40 歳代が 7 割以上、それ以外の年代も高い割合でしたが、70 歳以上は 39% と他の年代に比べ低い割合でした。

・「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」において、どの年代も 5 割以上ですが、40 歳代は 37. 8% でした。

	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	その他	特に必要なことはない
18～29歳 (N=20)	55.0%	5.0%	60.0%	10.0%	25.0%	60.0%	45.0%	35.0%	30.0%	0.0%	0.0%
30歳代 (N=48)	47.9%	12.5%	56.3%	50.0%	56.3%	70.8%	60.4%	10.4%	16.7%	6.3%	0.0%
40歳代 (N=37)	59.5%	27.0%	37.8%	27.0%	45.9%	75.7%	43.2%	18.9%	10.8%	8.1%	0.0%
50歳代 (N=51)	62.7%	27.5%	52.9%	37.3%	52.9%	62.7%	51.0%	13.7%	17.6%	2.0%	0.0%
60歳代 (N=59)	50.8%	25.4%	59.3%	39.0%	49.2%	50.8%	45.8%	32.2%	25.4%	3.4%	1.7%
70歳以上 (N=59)	42.4%	13.6%	57.6%	32.2%	30.5%	39.0%	35.6%	16.9%	11.9%	6.8%	0.0%

(3) 家事・育児・介護の理想の役割分担

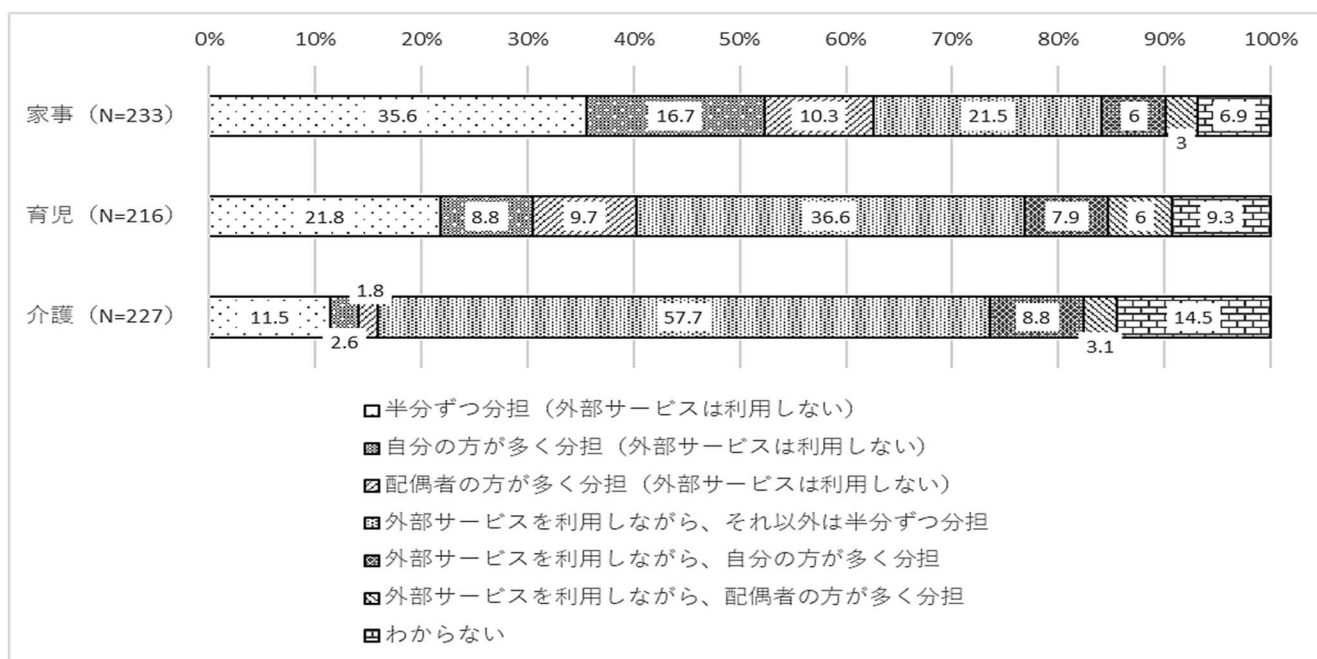
Q3. あなたは、家事・育児・介護などの家庭で担われている役割について、あなたと配偶者でどのように分担したいと思いますか。保育所、訪問介護、家事代行など外部サービスの利用も含め、1つだけお選びください。

・「家事」において、「半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」が最多で35.6%。次いで「外部サービスを利用しながら、それ以外は半分ずつ分担」が21.5%であり、半分ずつ分担したいと思っている方が5割以上でした。

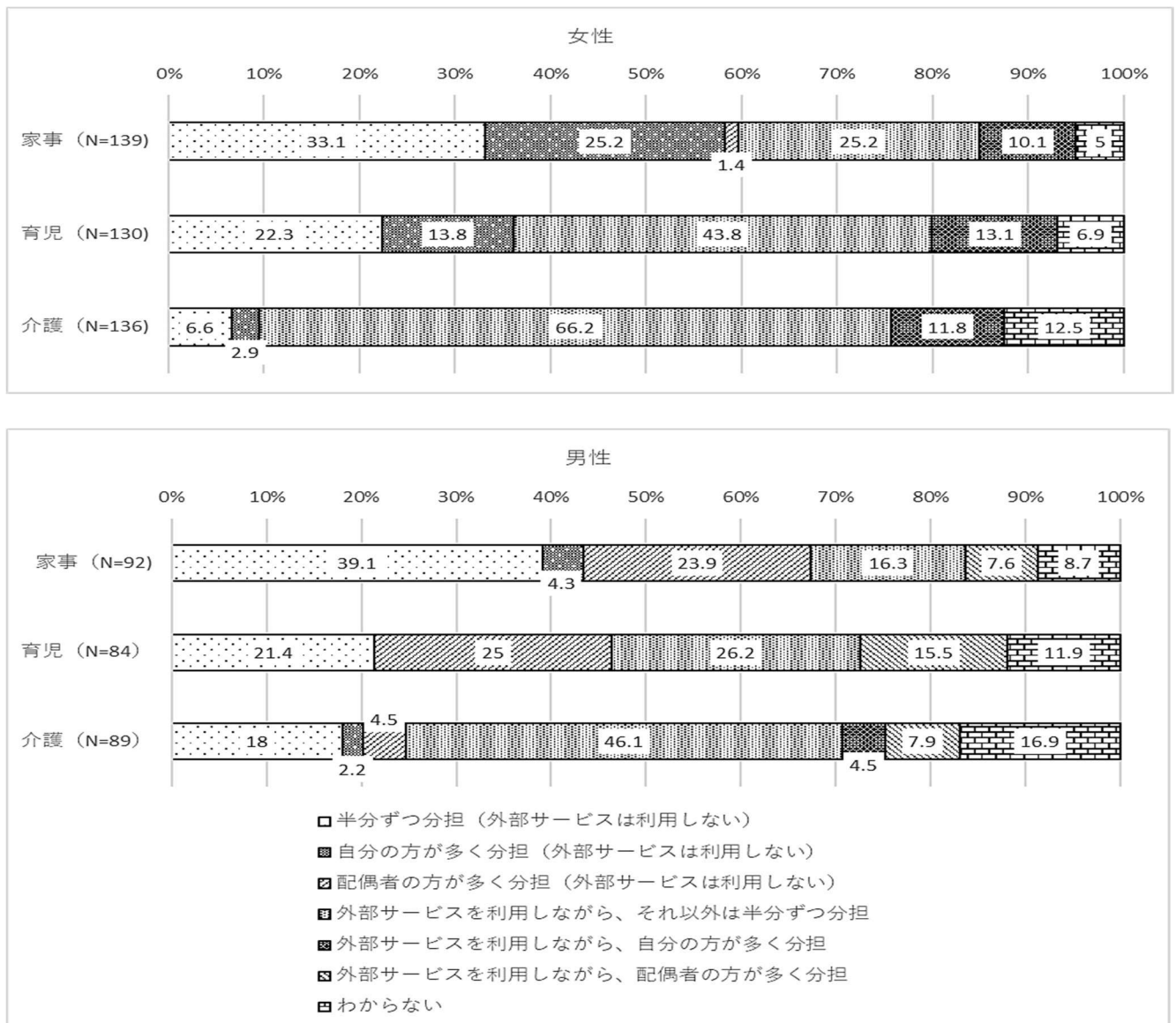
・「育児」において、「外部サービスを利用しながら、それ以外は半分ずつ分担」が最多で36.6%。次いで「半分ずつ分担（外部サービスは利用しない）」が21.8%でした。

・「介護」において、「外部サービスを利用しながら、それ以外は半分ずつ分担」が最多で57.7%。次いで「わからない」が14.5%でした。

・いずれも「半分ずつ分担」という言葉が入っている項目が多くありました。



・性別では、女性において、「配偶者の方が多く分担（外部サービスは利用しない）」は、ほとんどありませんでした。反対に男性においては、家事・育児が2割を超えていました。

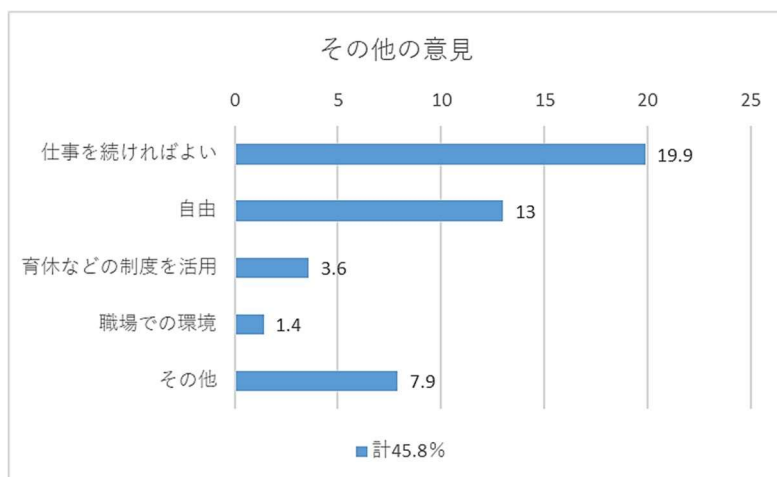
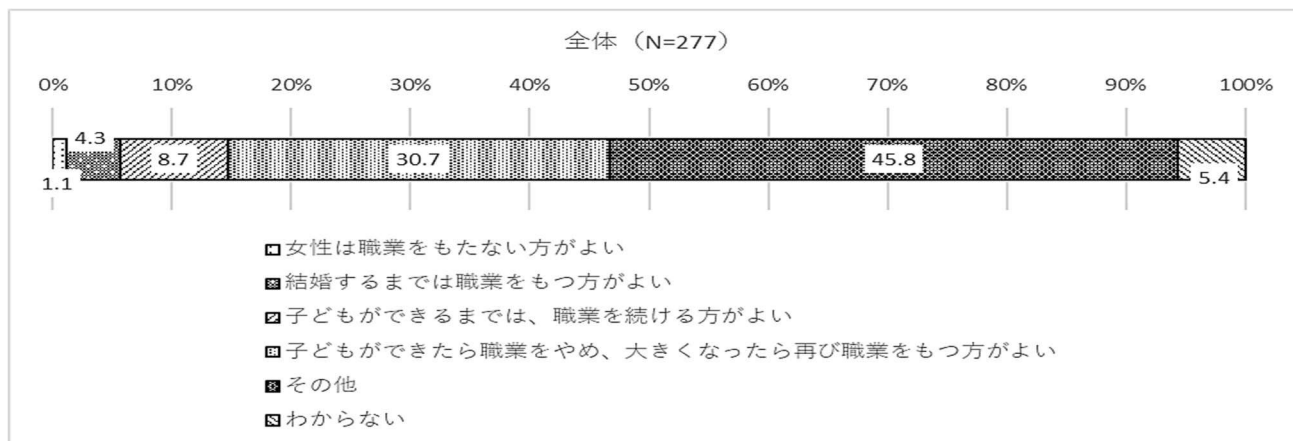


3 仕事について

(1) 女性が職業をもつことに対する意識

Q4. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

・「その他」が47.7%で最多。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が32%。

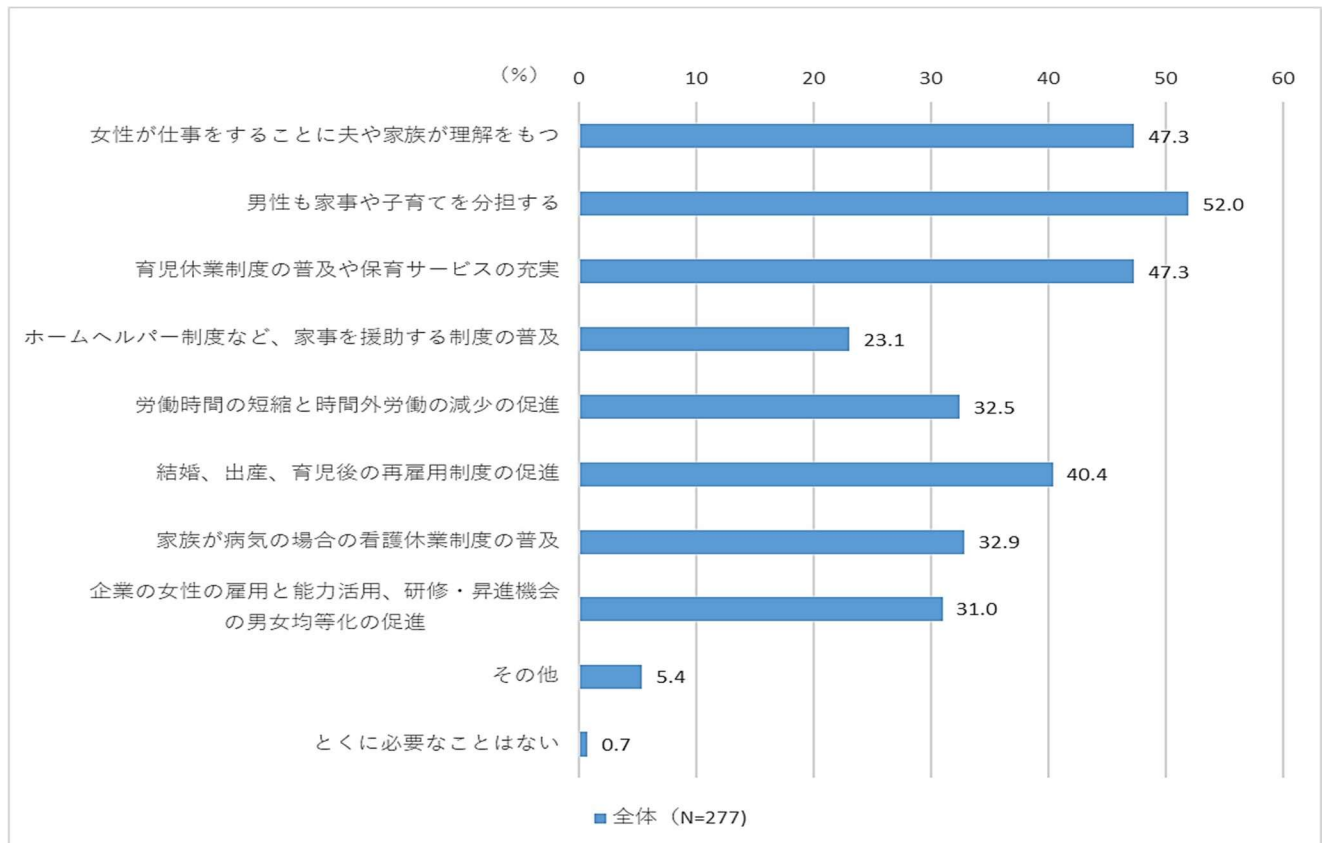


・その他の意見として、「仕事を続けられよう」という意見が19.9%で最多。

(2) 男女の対等な就労促進に必要なこと

Q5. 男女が対等に働くことを促進するために必要なことは、どのようなことだと思いますか。

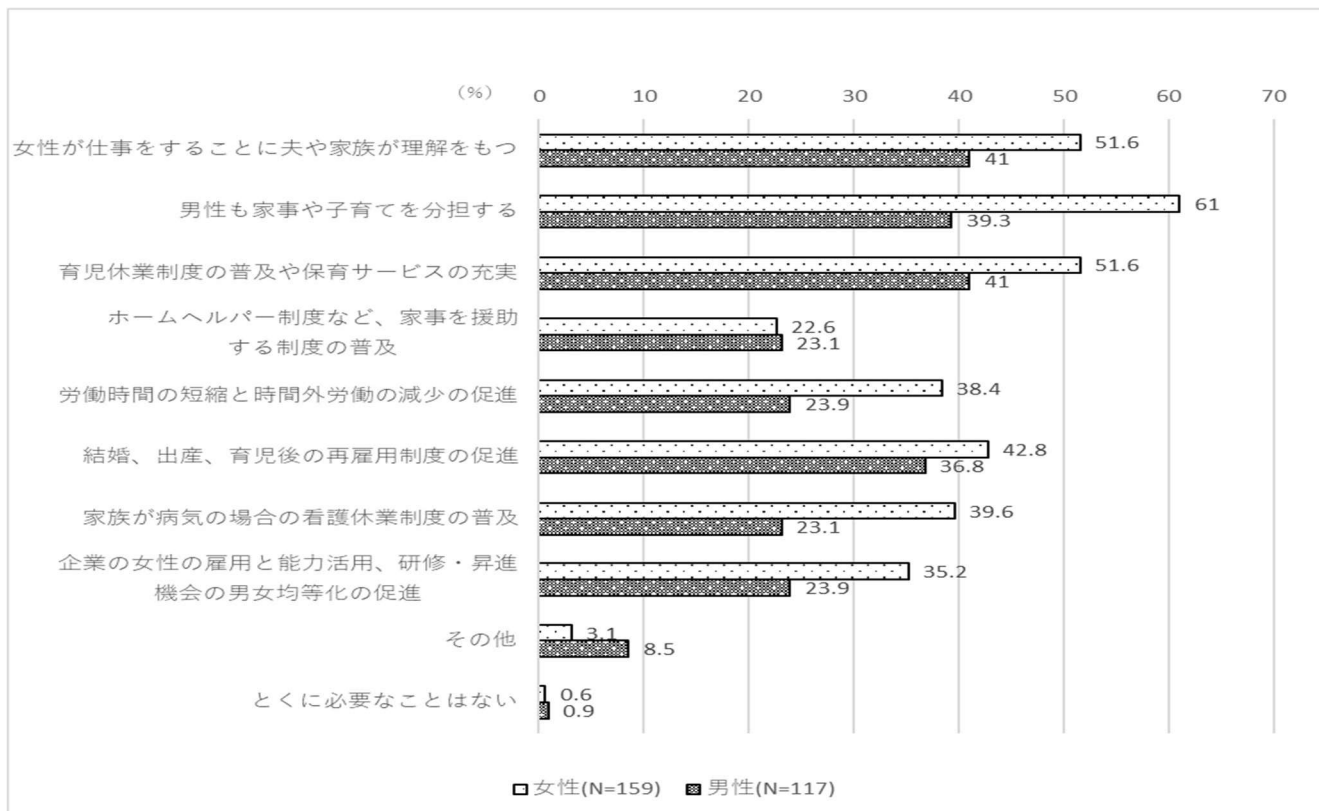
・「男性も家事や子育てを分担する」が52.0%で最多。次いで「女性が仕事をすることに夫や家族が理解をもつ」、「育児休業制度の普及や保育サービスの充実」がともに47.3%。



・性別では、女性は「男性も家事や子育てを分担する」が61%で最多。次いで「女性が仕事をする
ことに夫や家族が理解をもつ」が51.6%。

男性は、「育児休業制度の普及や保育サービスの充実」及び「女性が仕事をするに夫や家族が理
解をもつ」がともに41%で最多。

・男女比において、「男性も家事や子育てを分担する」が21.7%の差が生まれました。



・年代別では、50歳代、60歳代、70歳以上において、「女性が仕事をするに夫や家族が理解
をもつ」が最多でした。

・40歳代において、「男性も家事や子育てを分担する」が最多で、次に多い「女性が仕事する
に夫や家族が理解をもつ」と24.4%の差が生まれました。

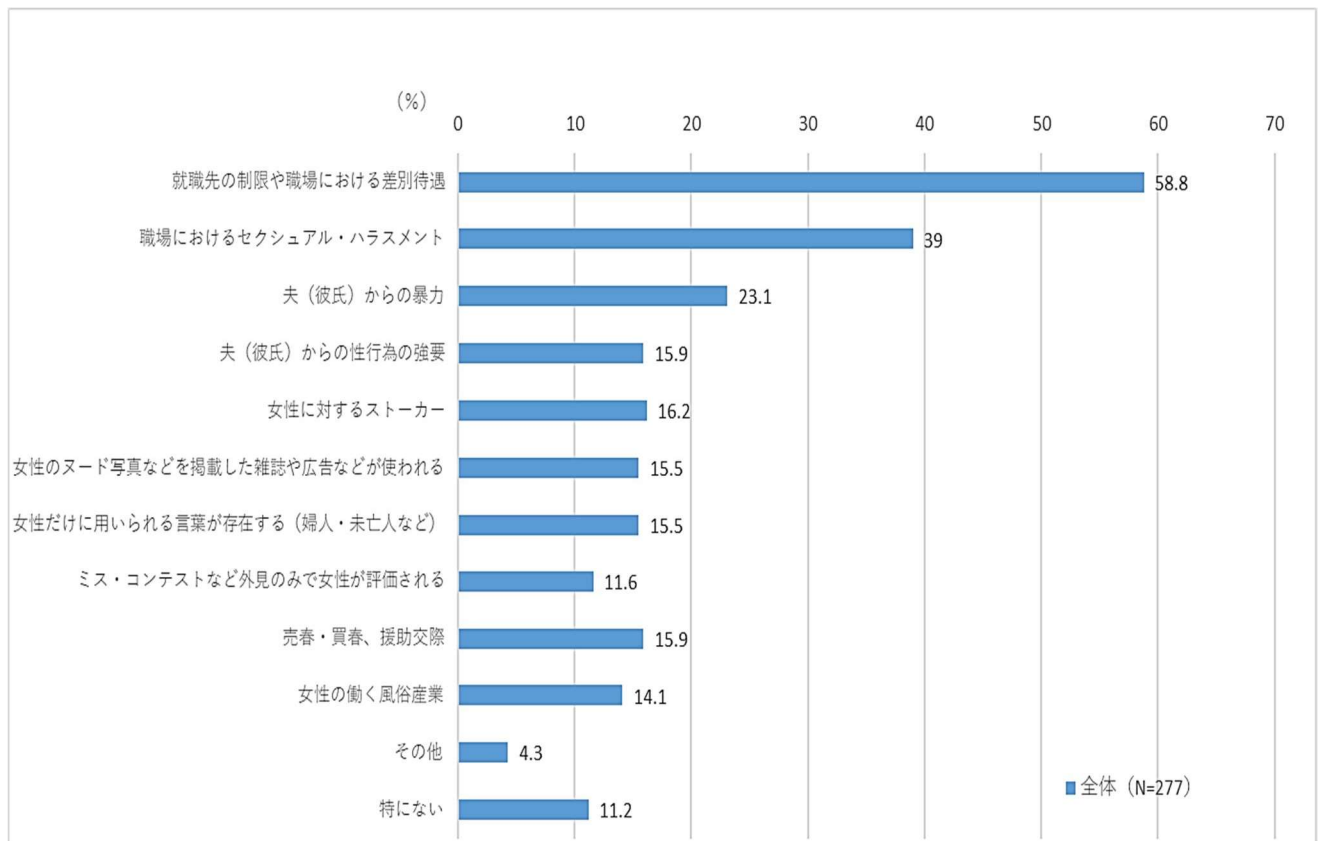
	女性が仕事をするに夫や家族が理解をもつ	男性も家事や子育てを分担する	育児休業制度の普及や保育サービスの充実	ホームヘルパー制度の普及	労働時間の短縮と時間外労働の減少の促進	結婚、出産、育児後の再雇用制度の促進	家族が病気の場合の看護休業制度の普及	企業の女性の雇用と能力活用、研修・昇進機会の男女均等化の促進	その他	とくに必要なことはない
18～29歳(N=20)	30.0%	55.0%	55.0%	20.0%	20.0%	55.0%	30.0%	35.0%	0.0%	0.0%
30歳代(N=48)	37.5%	54.2%	60.4%	20.8%	39.6%	45.8%	35.4%	25.0%	8.3%	0.0%
40歳代(N=37)	40.5%	64.9%	48.6%	24.3%	48.6%	45.9%	29.7%	35.1%	5.4%	0.0%
50歳代(N=51)	47.1%	45.1%	31.4%	15.7%	25.5%	35.3%	21.6%	23.5%	5.9%	3.9%
60歳代(N=59)	59.3%	59.3%	50.8%	32.2%	30.5%	37.3%	42.4%	37.3%	8.5%	0.0%
70歳以上(N=59)	52.5%	39.0%	42.4%	22.0%	27.1%	33.9%	32.2%	30.5%	1.7%	0.0%

4 人権について

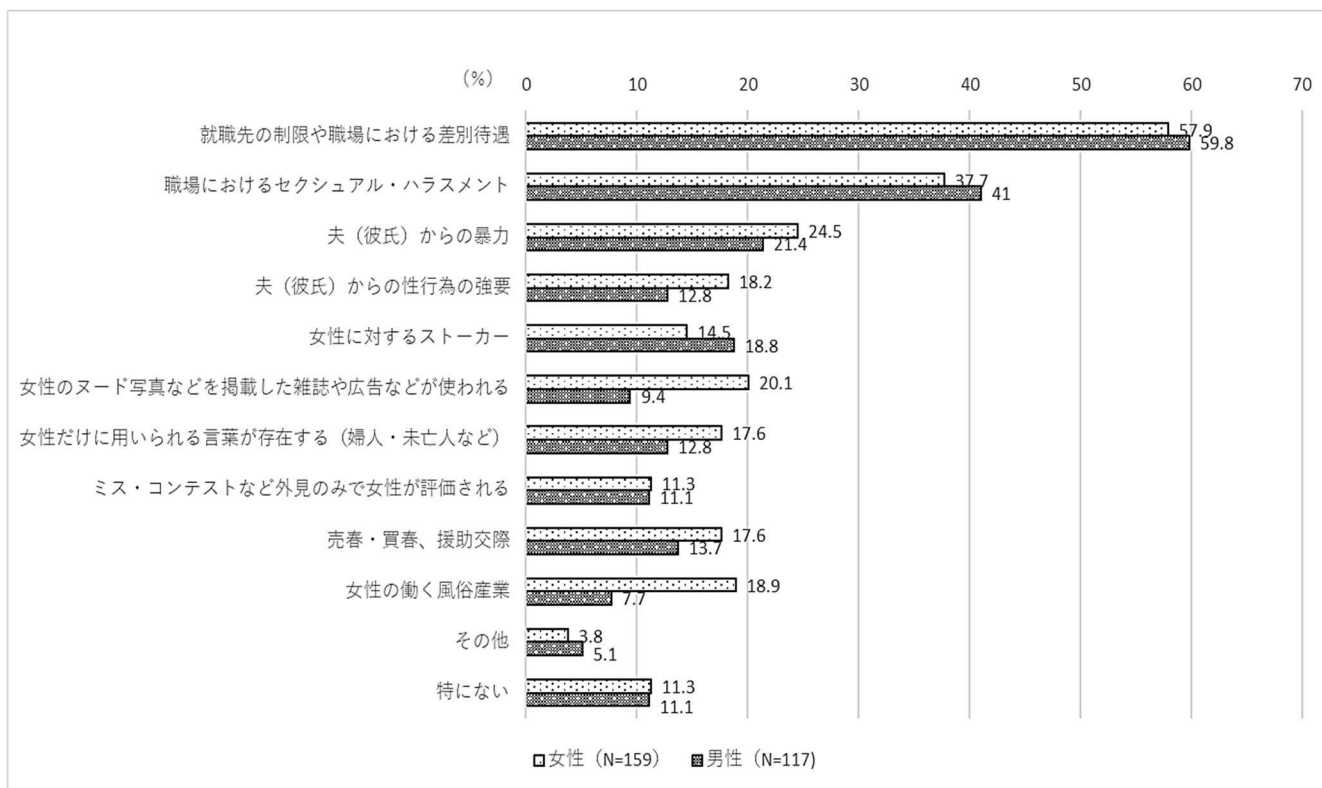
(1) 女性の人権が尊重されていないと感じること

Q6. 女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。

・「就職先の制限や職場における差別待遇」が58.8%で最多。次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が39%。両方とも「職場」でのことでありました。



- ・性別では、「就職先の制限や職場における差別待遇」において、女性が57.9%、男性が59.8%といずれも同じくらいの割合で最多でした。次いで男女共「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」であり、女性が37.7%、男性が41.0%でした。
- ・どの項目においても、男女比の差はあまりありませんでした。



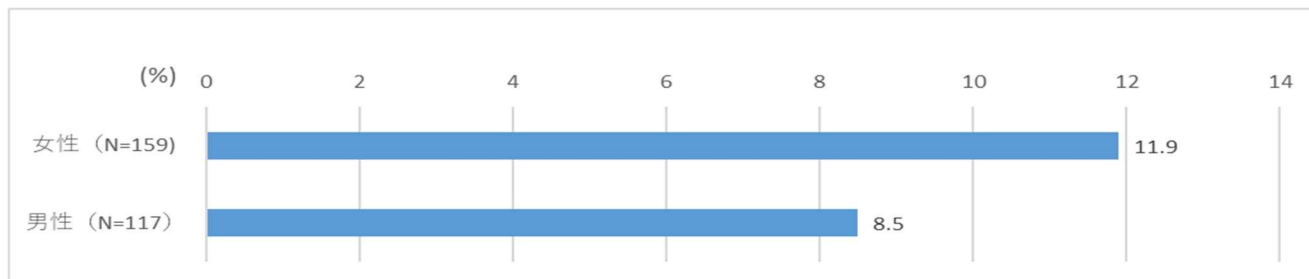
- ・年代別では、どの年代においても「就職先の制限や職場における差別待遇」が最多で、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」でした。

	就職先の制限や職場における差別待遇	職場におけるセクシュアル・ハラスメント	夫（彼氏）からの暴力	夫（彼氏）からの性行為の強要	女性に対するストーカー	女性のヌード写真などを掲載した雑誌や広告などが使われる	女性だけに用いられる言葉が存在する（婦人・未亡人など）	ミス・コンテストなど外見のみで女性が評価される	売春・買春、援助交際	女性の働く風俗産業	その他	特になし
18～29歳 (N=20)	75.0%	40.0%	20.0%	5.0%	10.0%	5.0%	10.0%	5.0%	10.0%	0.0%	10.0%	10.0%
30歳代 (N=48)	54.2%	41.7%	25.0%	22.9%	18.8%	14.6%	18.8%	4.2%	10.4%	6.3%	16.7%	14.6%
40歳代 (N=37)	45.9%	27.0%	21.6%	13.5%	13.5%	5.4%	13.5%	2.7%	13.5%	21.6%	0.0%	21.6%
50歳代 (N=51)	51.0%	35.3%	15.7%	17.6%	7.8%	9.8%	17.6%	7.8%	7.8%	5.9%	2.0%	7.8%
60歳代 (N=59)	76.3%	49.2%	28.8%	18.6%	25.4%	27.1%	15.3%	22.0%	30.5%	22.0%	1.7%	8.5%
70歳以上 (N=59)	57.6%	39.0%	25.4%	11.9%	16.9%	20.3%	15.3%	18.6%	16.9%	20.3%	0.0%	6.8%

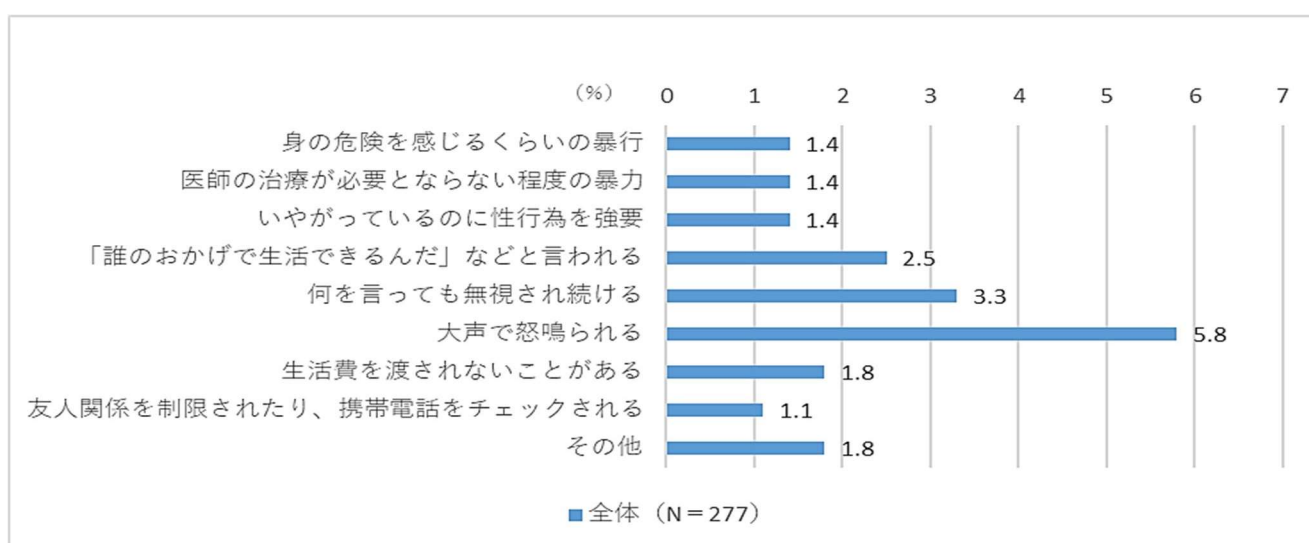
(2) DV 被害の経験及び内容

Q7. 配偶者や恋人などから暴力を受けたことがある方にお伺いします。それはどのような暴力ですか。(複数回答可)

- 配偶者や恋人などから DV 被害の経験がある人は、女性は 11.9%、男性 8.5%でした。

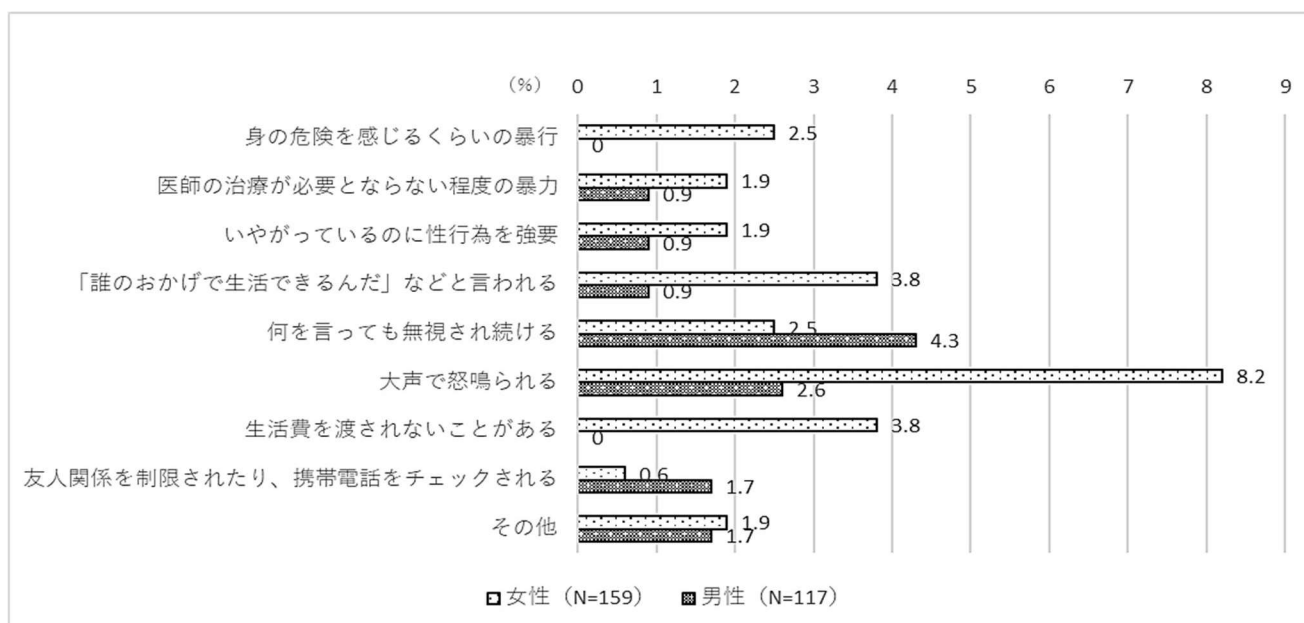


- 「大声で怒鳴られる」が 5.8%で最多。次いで「何を言っても無視され続ける」が 3.3%。



- 性別では、女性において、「大声で怒鳴られる」が 8.2%と他の項目と比べ圧倒的に多く、次いで「誰のおかげで生活できるんだ」などと言われる」及び「生活費を渡されないことがある」がともに 3.8%。

男性では、「何を言っても無視され続ける」が 4.3%で最多。次いで「大声で怒鳴られる」が 2.6%。

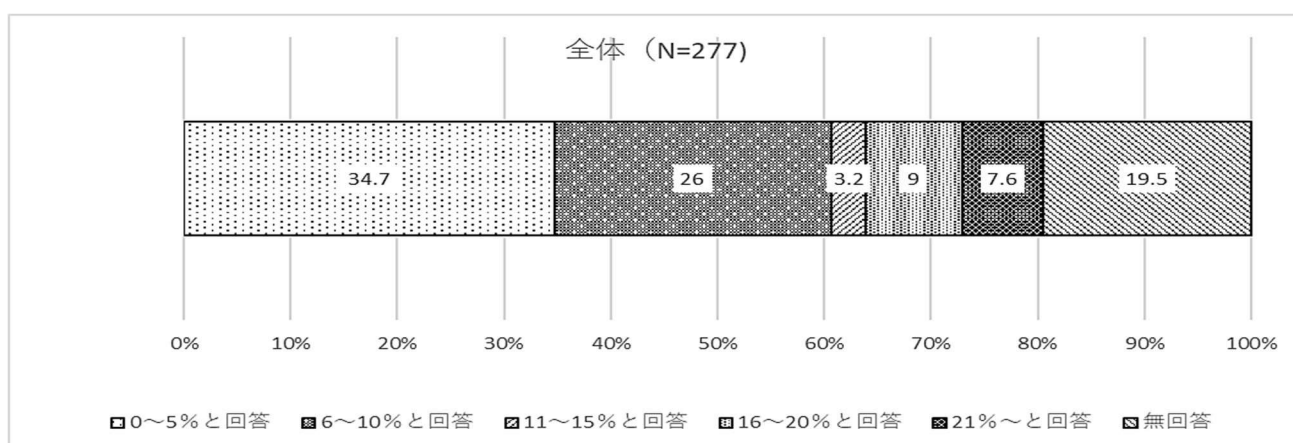


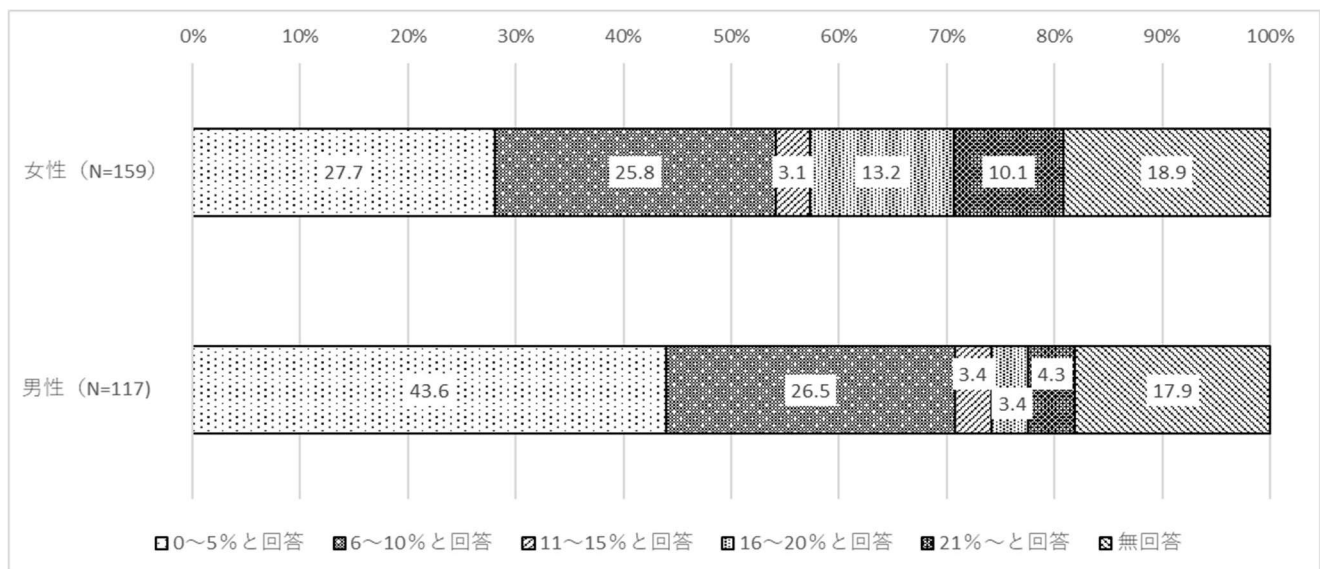
(3) LGBT に関する認知度

Q8. LGBT (※) の方は、日本において、人口の何%ぐらいだと思いますか。

※LGBT とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、それぞれの英語の頭文字からとった性的少数者の総称です。

- 「0～5%」が 34.7% で最多でした。
- 日本の人口において、LGBT の方は、約 7.6% (13 人に 1 人) です。最も近かった「8%」と回答された方の割合は、2.2% でした。

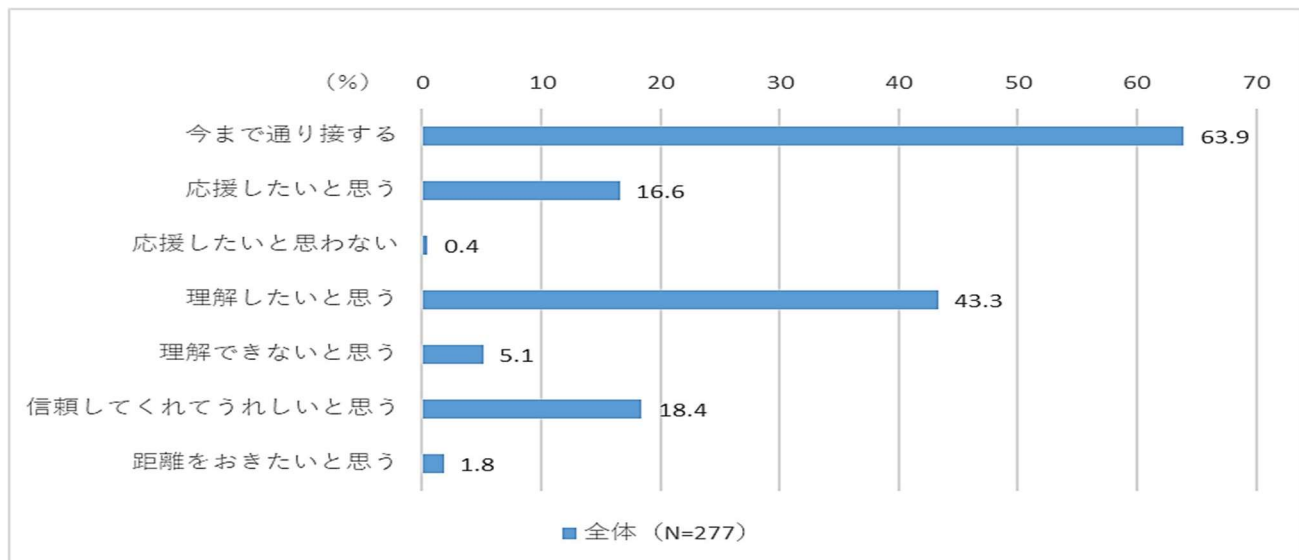




(4) LGBT に対する反応

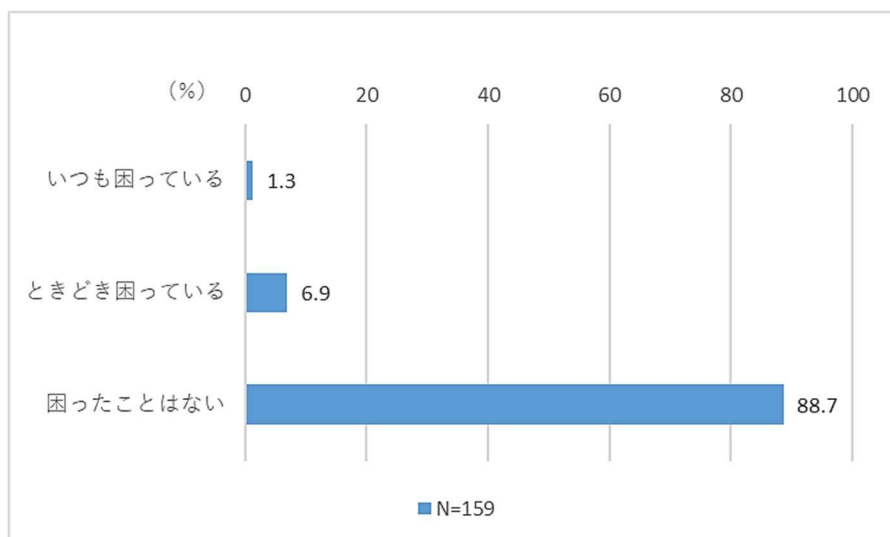
Q9. あなたの身近な人（家族、友人、知人）などから、LGBTであることを打ち明けられた場合、あなたの気持ちに近いものに○をしてください。（複数回答可）

・「今まで通り接する」が最多で63.9%。次いで「理解したいと思う」が43.3%と、ポジティブな反応が多くありました。



(5) 生理用品を買うのに困ったことがある経験

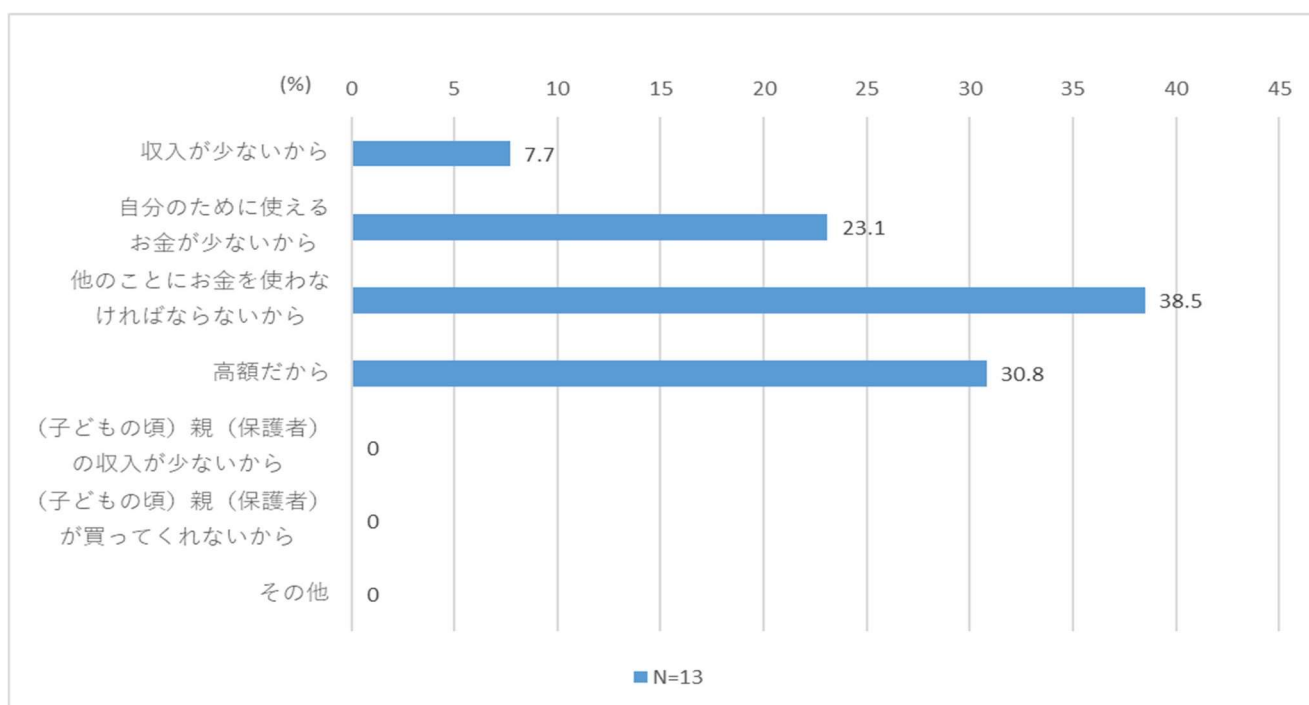
Q10. (女性の方のみご回答ください) これまでに生理用品を買うのに困ったことがありますか。



- ほとんどの方は、「困ったことがない」という結果でした。
- 「いつも困っている」は 1.3%、「ときどき困っている」は 6.9%でした。
- 8人に 1 人は困ったことがあるということになります。

Q10-1. 困った理由は何ですか。

• 困ったことがある方で困った理由について、「他のことにお金を使わなければならないから」が 38.5%で最多。次いで「高額だから」が 30.8%。



(6) 生理について世の中への不満

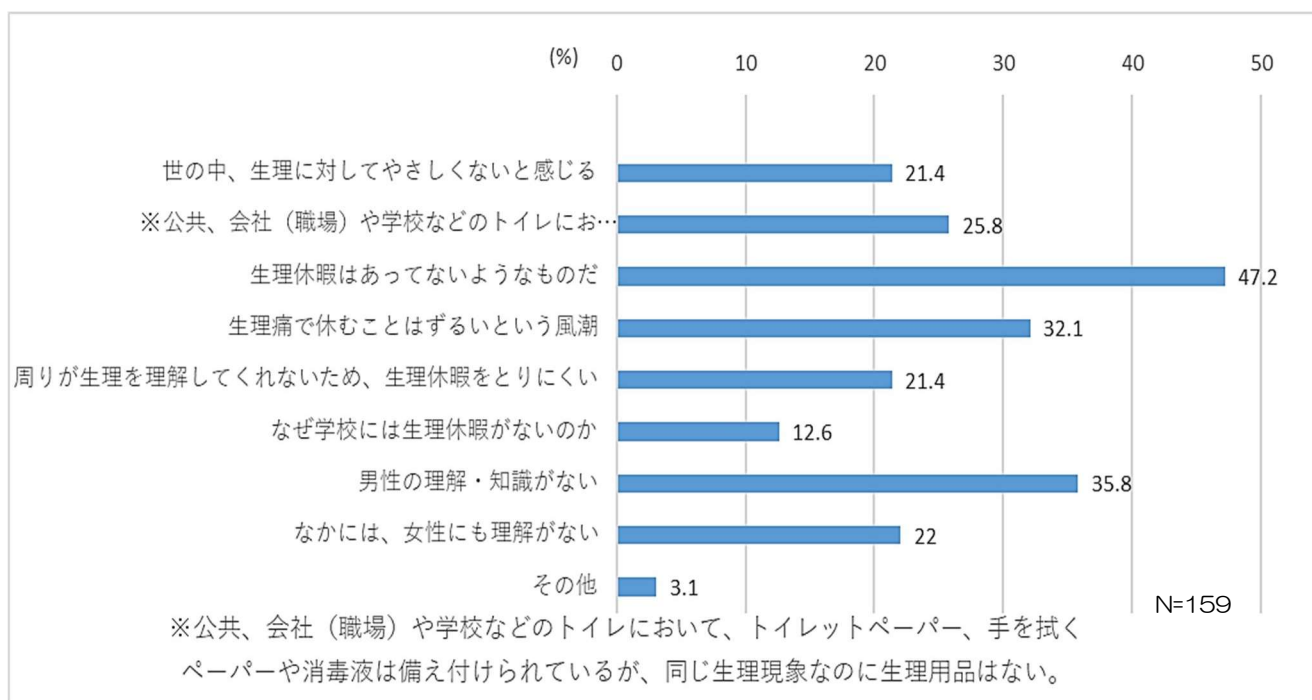
Q11. (女性の方のみご回答ください) 生理について、どのような不満を感じますか。

・「生理休暇はあってないようなものだ」が47.2%で最多。次いで「男性の理解・知識がない」が35.8%。

・「なぜ学校には生理休暇がないのか」以外の項目においては、5人に1人はそのような不満を感じているという結果になりました。

【その他の意見】

- ・生理休暇をとると確認の電話があること。
- ・きちんと学校で教えるべきことのひとつであると思う。 など



・年代別では、18～29 歳代以外の年代において、「生理休暇はあってないようなものだ」が最多でした。

	世の中、生理に対してやさしくないと感じる	公共、会社（職場）や学校などのトイレにおいて、トイレットペーパーや消毒液は備え付けられているが、同じ生理現象なのに生理用品はない	生理休暇はあってないようなものだ	生理痛で休むことはずるいという風潮	周りが生理を理解してくれないため、生理休暇をとりにくい	なぜ学校には生理休暇がないのか	男性の理解・知識がない	なかには、女性にも理解がない	その他
18～29歳 (N=10)	30.0%	40.0%	40.0%	70.0%	40.0%	40.0%	50.0%	50.0%	0.0%
30歳代 (N=28)	21.4%	14.3%	53.6%	42.9%	28.6%	10.7%	42.9%	17.9%	10.7%
40歳代 (N=24)	20.8%	20.8%	45.8%	41.7%	16.7%	33.3%	37.5%	37.5%	0.0%
50歳代 (N=34)	20.6%	17.6%	55.9%	23.5%	14.7%	2.9%	32.4%	26.5%	0.0%
60歳代 (N=31)	22.6%	38.7%	41.9%	16.1%	22.6%	6.5%	22.6%	3.2%	6.5%
70歳以上 (N=31)	16.1%	29.0%	38.7%	29.0%	16.1%	6.5%	38.7%	19.4%	0.0%

(7) フェムテックの認知度

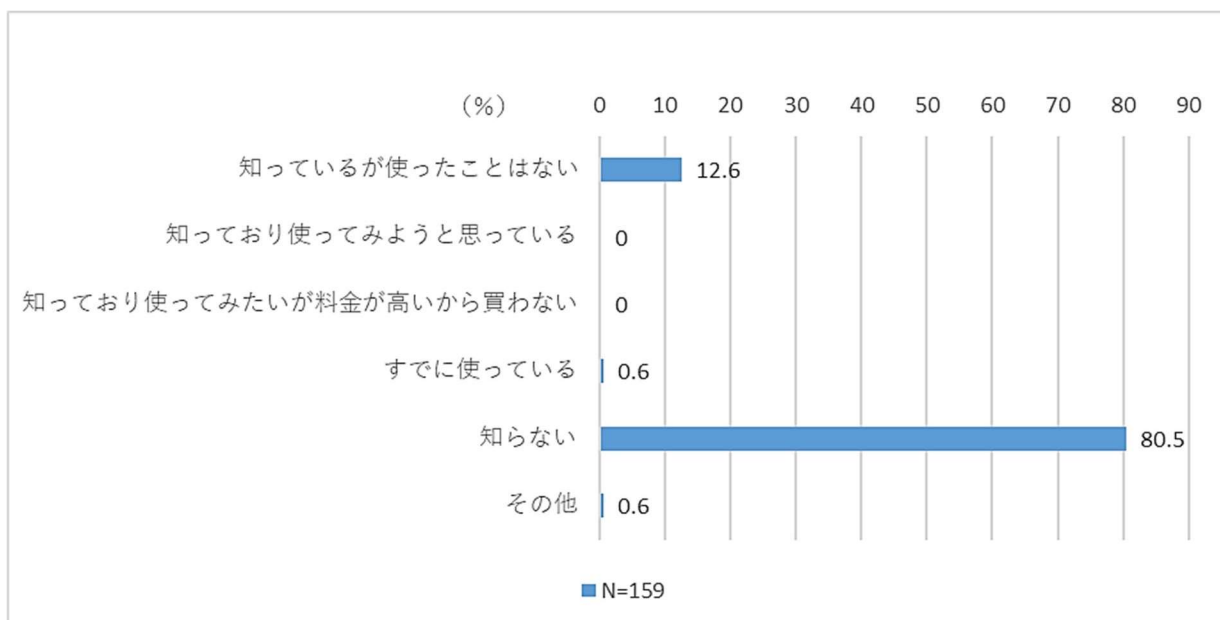
Q12. (女性の方のみご回答ください) フェムテックをご存じですか。

- ・「知らない」が80.5%と圧倒的に多く、次いで「知っているが使ったことはない」が12.6%でした。
- ・「知っており使ってみようと思っている」及び「知っており使ってみたいが料金が高いから買わない」は、0%でした。
- ・「すでに使っている」は、0.6% (1名) でした。

フェムテックとは・・・

女性の健康の課題をテクノロジーで解決する製品やサービスのことです。

吸水ショーツや、月経カップ、生理管理アプリなど



5 男女共同参画社会に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感

Q13. 次の項目において、男女の地位は平等になっていると思いますか。あてはまるものに○をしてください。

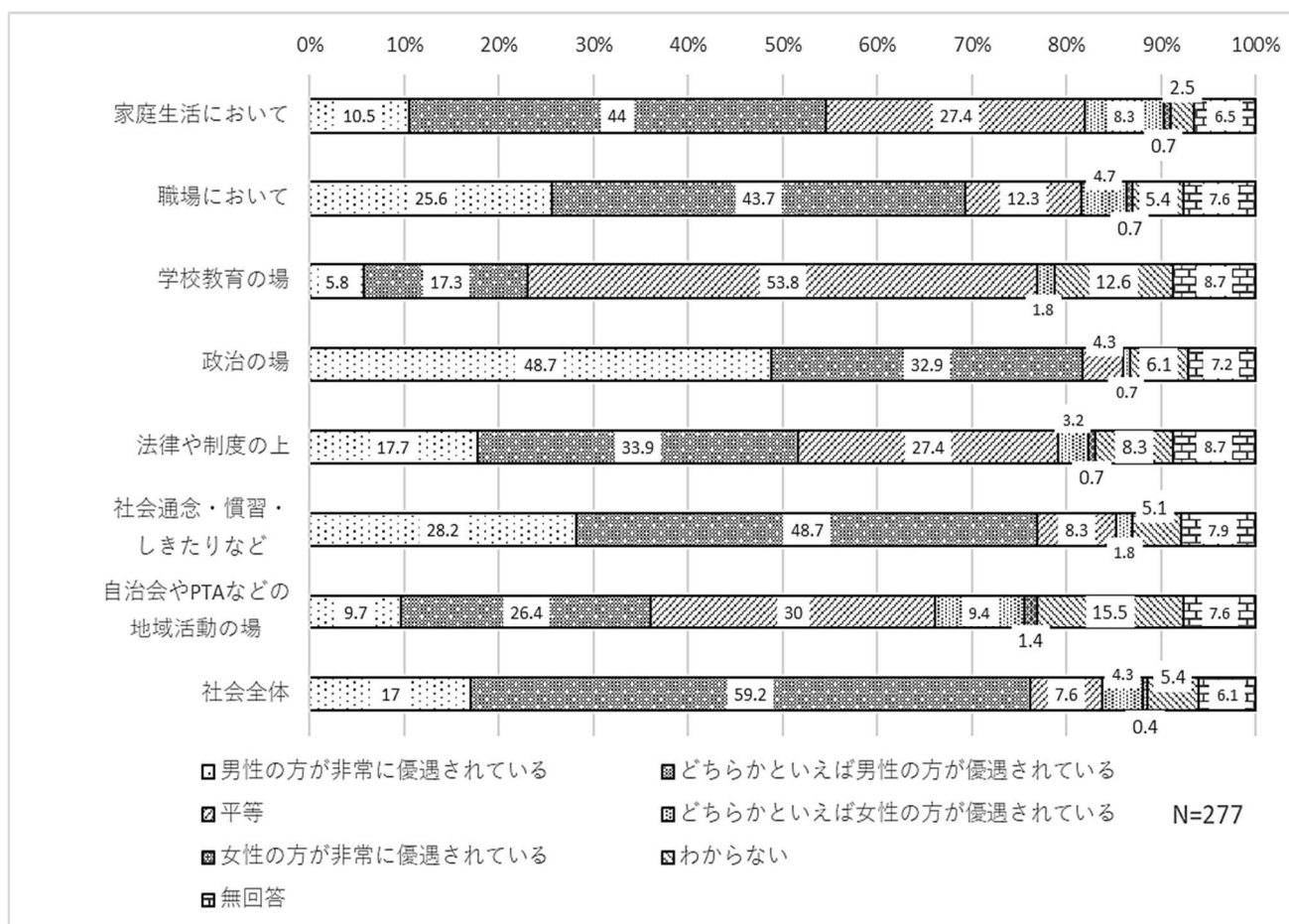
・「家庭生活において」、「職場において」、「政治の場」、「法律や制度の上」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体」の項目において、「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が過半数以上を占めています。

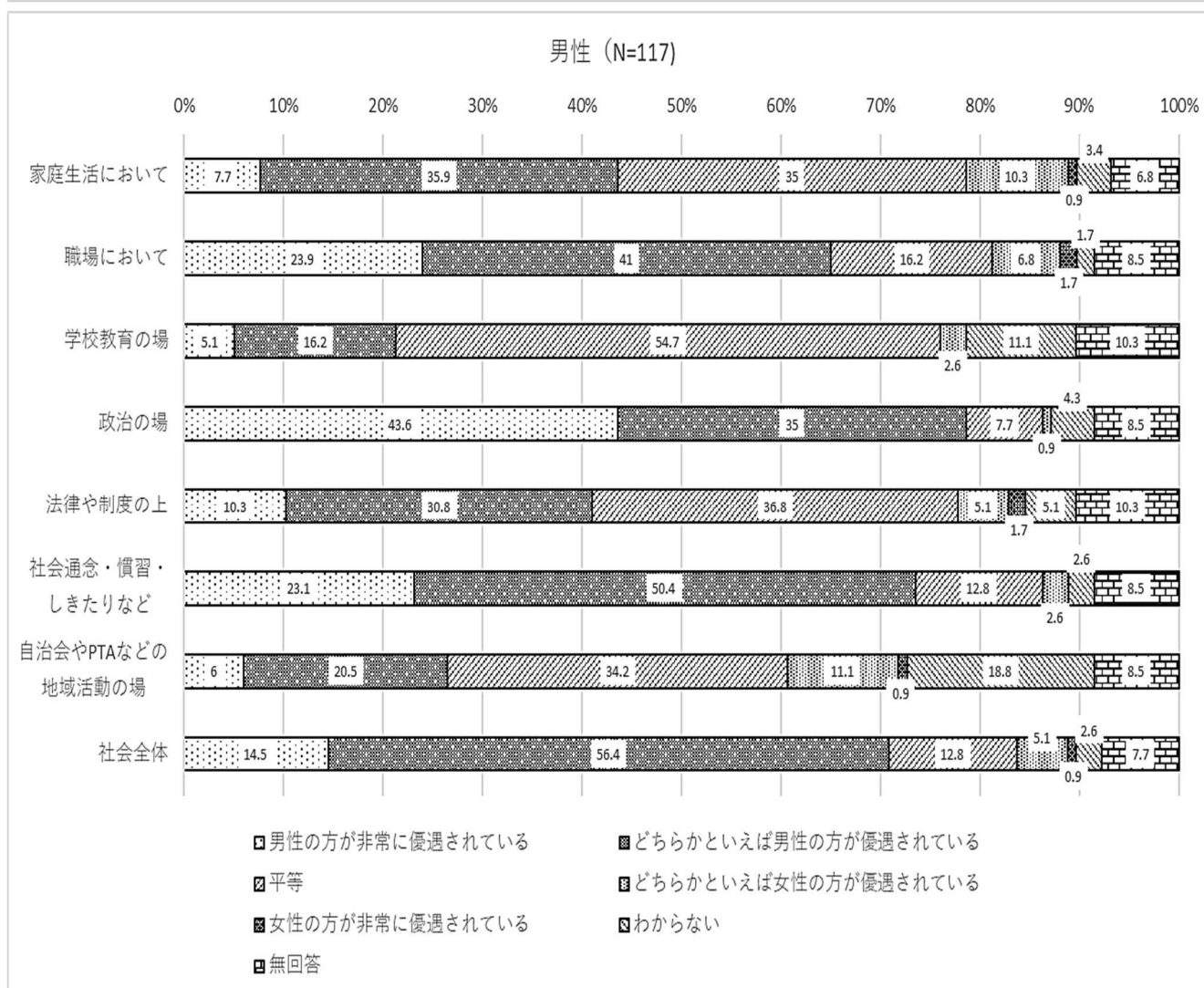
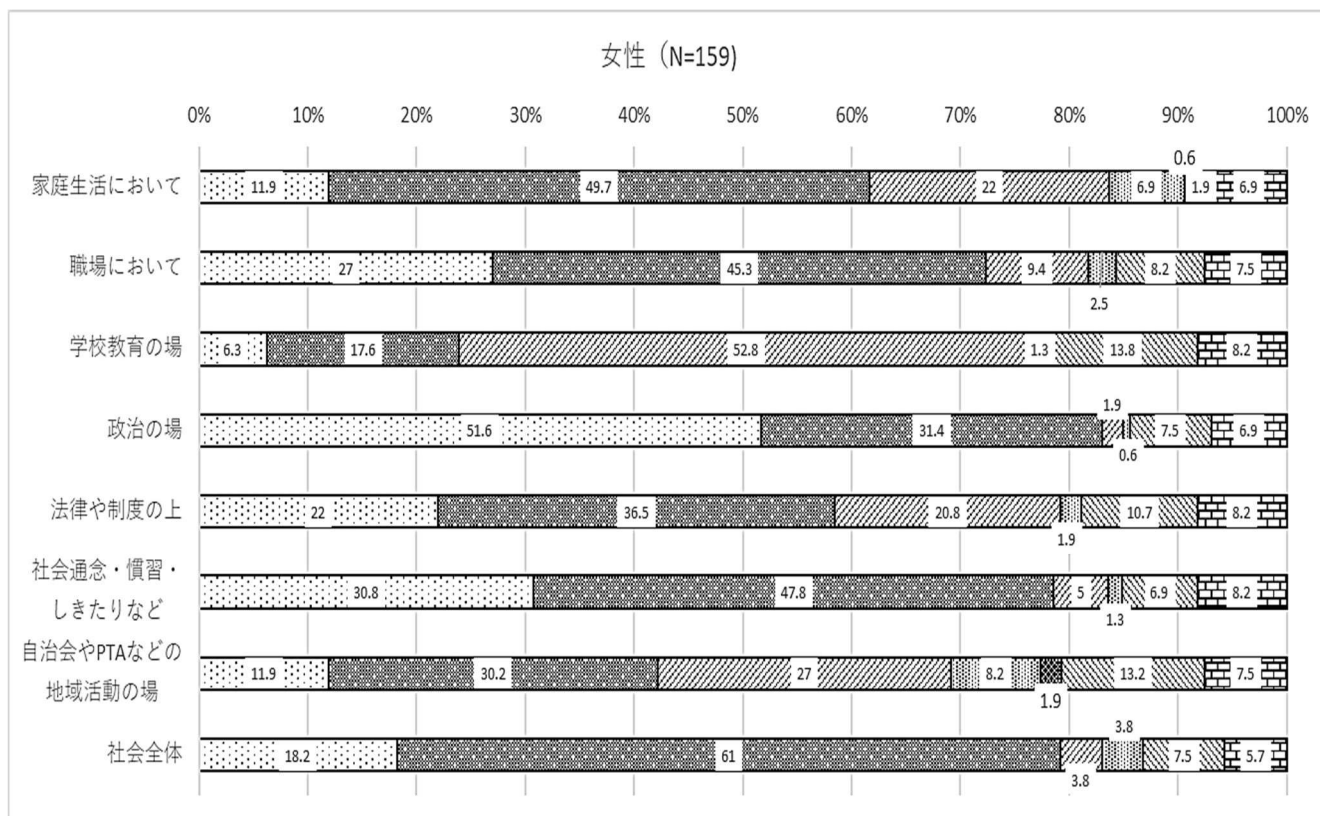
「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体」の項目においては、「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が7割以上でした。

・全ての項目において、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が多く占めていましたが、唯一、「政治の場」においては、「男性の方が非常に優遇されている」が最多で48.6%でした。

・「学校教育の場」において、「平等」が53.6%であり、比較的平等であるという結果でした。

・「女性の方が非常に優遇されている」において、「自治会やPTAなどの地域活動の場」以外の項目は、全て1%未満。中でも「学校教育の場」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」においては、0%でした。





年代別		るに男 優性の 遇の方 がて非 い常	遇ばど さ男ち され性 ての方 といが るい優 え	平 等	遇ばど さ女ち され性 ての方 といが るい優 え	るに女 優性の 遇の方 がて非 い常	わ か ら な い
家庭 生活に おいて	18～29歳 (N=20)	15.0%	40.0%	35.0%	5.0%	0.0%	5.0%
	30歳代 (N=48)	6.3%	37.5%	35.4%	12.5%	2.1%	2.1%
	40歳代 (N=37)	12.8%	36.2%	21.3%	4.3%	2.1%	2.1%
	50歳代 (N=51)	9.8%	52.9%	15.7%	11.8%	0.0%	3.9%
	60歳代 (N=59)	6.8%	45.8%	32.2%	3.4%	0.0%	3.4%
	70歳以上(N=59)	10.2%	40.7%	25.4%	10.2%	0.0%	0.0%
職場に おいて	18～29歳 (N=20)	20.0%	60.0%	5.0%	5.0%	0.0%	10.0%
	30歳代 (N=48)	18.8%	43.8%	20.8%	8.3%	0.0%	6.3%
	40歳代 (N=37)	37.8%	40.5%	10.8%	2.7%	5.4%	2.7%
	50歳代 (N=51)	31.4%	41.2%	13.7%	2.0%	0.0%	7.8%
	60歳代 (N=59)	23.7%	47.5%	13.6%	3.4%	0.0%	3.4%
	70歳以上(N=59)	22.0%	39.0%	6.8%	5.1%	0.0%	5.1%
学校 教育 の場	18～29歳 (N=20)	10.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%	10.0%
	30歳代 (N=48)	0.0%	8.3%	66.7%	4.2%	0.0%	16.7%
	40歳代 (N=37)	5.4%	16.2%	67.6%	0.0%	0.0%	10.8%
	50歳代 (N=51)	9.8%	15.7%	52.9%	3.9%	0.0%	15.7%
	60歳代 (N=59)	8.5%	15.3%	55.9%	0.0%	0.0%	13.6%
	70歳以上(N=59)	3.4%	25.4%	32.2%	1.7%	0.0%	8.5%
政治 の場	18～29歳 (N=20)	45.0%	40.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%
	30歳代 (N=48)	41.7%	37.5%	6.3%	0.0%	0.0%	10.4%
	40歳代 (N=37)	59.5%	32.4%	0.0%	2.7%	0.0%	5.4%
	50歳代 (N=51)	56.9%	25.5%	3.9%	2.0%	0.0%	7.8%
	60歳代 (N=59)	49.2%	33.9%	5.1%	0.0%	0.0%	3.4%
	70歳以上(N=59)	40.7%	33.9%	5.1%	0.0%	0.0%	3.4%
法律 や制 度の 上	18～29歳 (N=20)	20.0%	40.0%	10.0%	10.0%	0.0%	15.0%
	30歳代 (N=48)	6.3%	39.6%	25.0%	6.3%	4.2%	14.6%
	40歳代 (N=37)	16.2%	29.7%	40.5%	0.0%	0.0%	10.8%
	50歳代 (N=51)	25.5%	33.3%	27.5%	2.0%	0.0%	3.9%
	60歳代 (N=59)	18.6%	40.7%	27.1%	0.0%	0.0%	3.4%
	70歳以上(N=59)	16.9%	25.4%	27.1%	5.1%	0.0%	8.5%
社会 通念・ 慣習・ しきた りなど	18～29歳 (N=20)	30.0%	50.0%	5.0%	5.0%	0.0%	5.0%
	30歳代 (N=48)	14.6%	50.0%	8.3%	4.2%	0.0%	16.7%
	40歳代 (N=37)	35.1%	51.4%	5.4%	2.7%	0.0%	5.4%
	50歳代 (N=51)	37.3%	45.1%	7.8%	2.0%	0.0%	2.0%
	60歳代 (N=59)	32.2%	49.2%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上(N=59)	20.3%	49.2%	11.9%	0.0%	0.0%	3.4%
PTAな ど自治 会や 地域 活動 の場	18～29歳 (N=20)	10.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%	35.0%
	30歳代 (N=48)	2.1%	27.1%	29.2%	6.3%	4.2%	27.1%
	40歳代 (N=37)	21.6%	24.3%	18.9%	16.2%	0.0%	18.9%
	50歳代 (N=51)	11.8%	25.5%	29.4%	13.7%	3.9%	11.8%
	60歳代 (N=59)	10.2%	30.5%	33.9%	6.8%	0.0%	8.5%
	70歳以上(N=59)	5.1%	27.1%	35.6%	6.8%	0.0%	8.5%
社会 全体	18～29歳 (N=20)	15.0%	55.0%	15.0%	10.0%	0.0%	5.0%
	30歳代 (N=48)	10.4%	60.4%	4.2%	6.3%	2.1%	14.6%
	40歳代 (N=37)	18.9%	62.2%	10.8%	2.7%	0.0%	5.4%
	50歳代 (N=51)	15.7%	70.6%	2.0%	3.9%	0.0%	3.9%
	60歳代 (N=59)	20.3%	62.7%	6.8%	3.4%	0.0%	0.0%
	70歳以上(N=59)	18.6%	44.1%	11.9%	3.4%	0.0%	5.1%

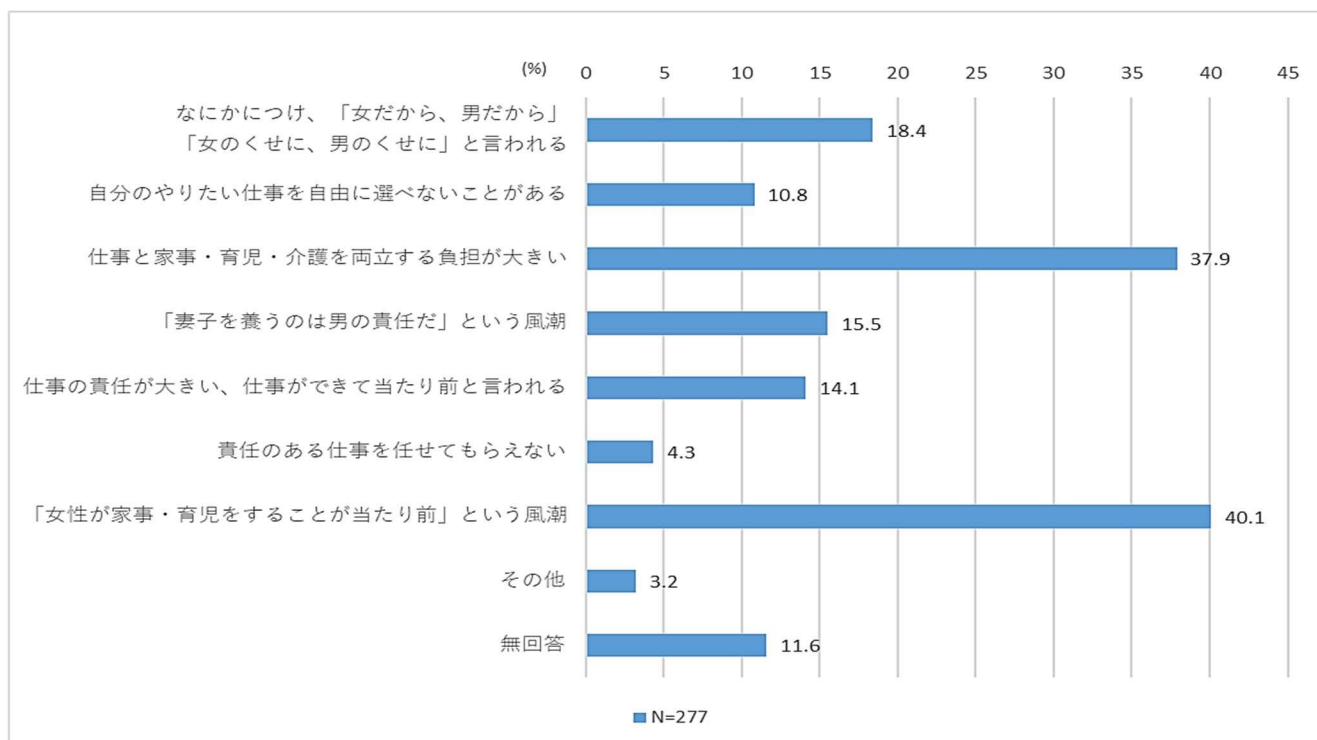
(2)「女性・男性であること」によって負担感や生きづらさを感じたこと

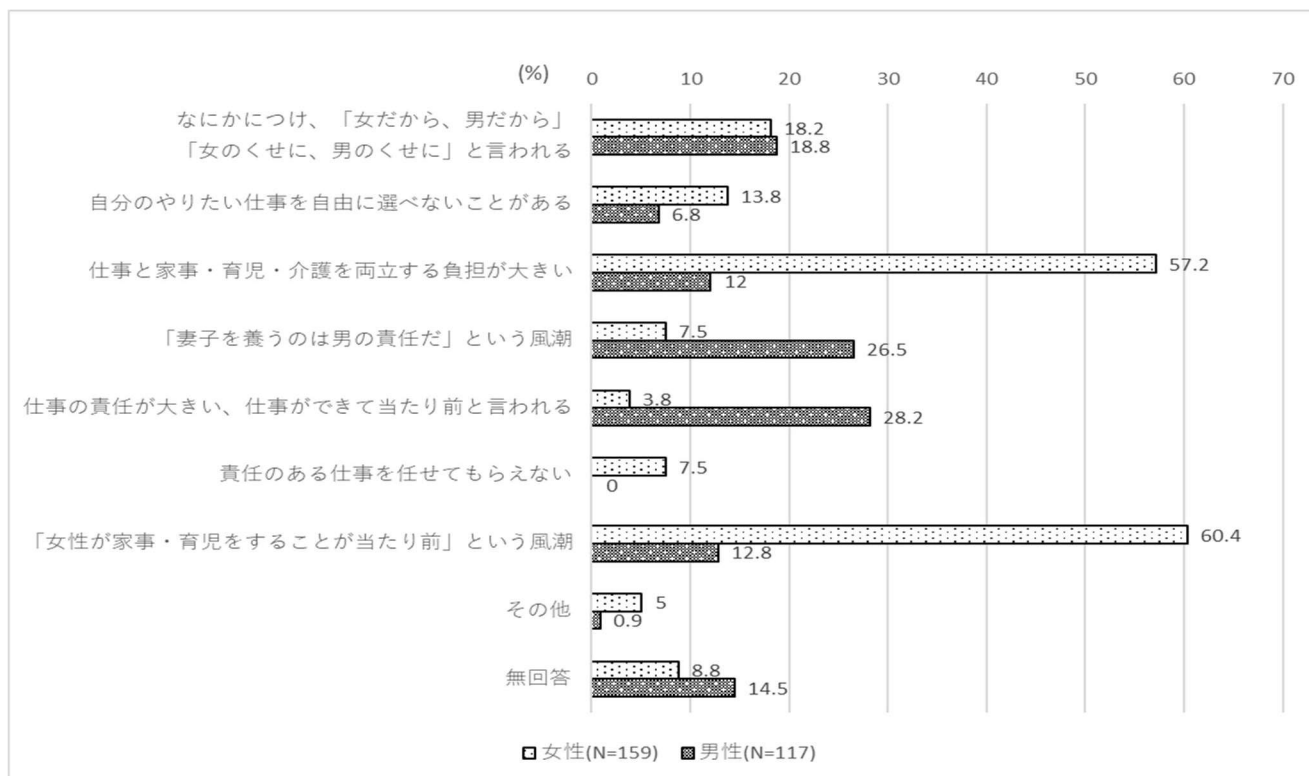
Q14. あなたは、「女性であること」または「男性であること」によって、どのようなときに負担感や生きづらさを感じたことがありますか。

・「女性が家事・育児をすることが当たり前」という風潮」が 40.1%で最多。次いで「仕事と家事・育児・介護を両立する負担が大きい」が37.9%と、家事等に対する負担がある方が多い結果となりました。

【その他意見】

- ・賃金格差。
- ・面接の際、結婚・出産の予定を確認される。 など





(3) 男女共同参画社会づくりの重点施策

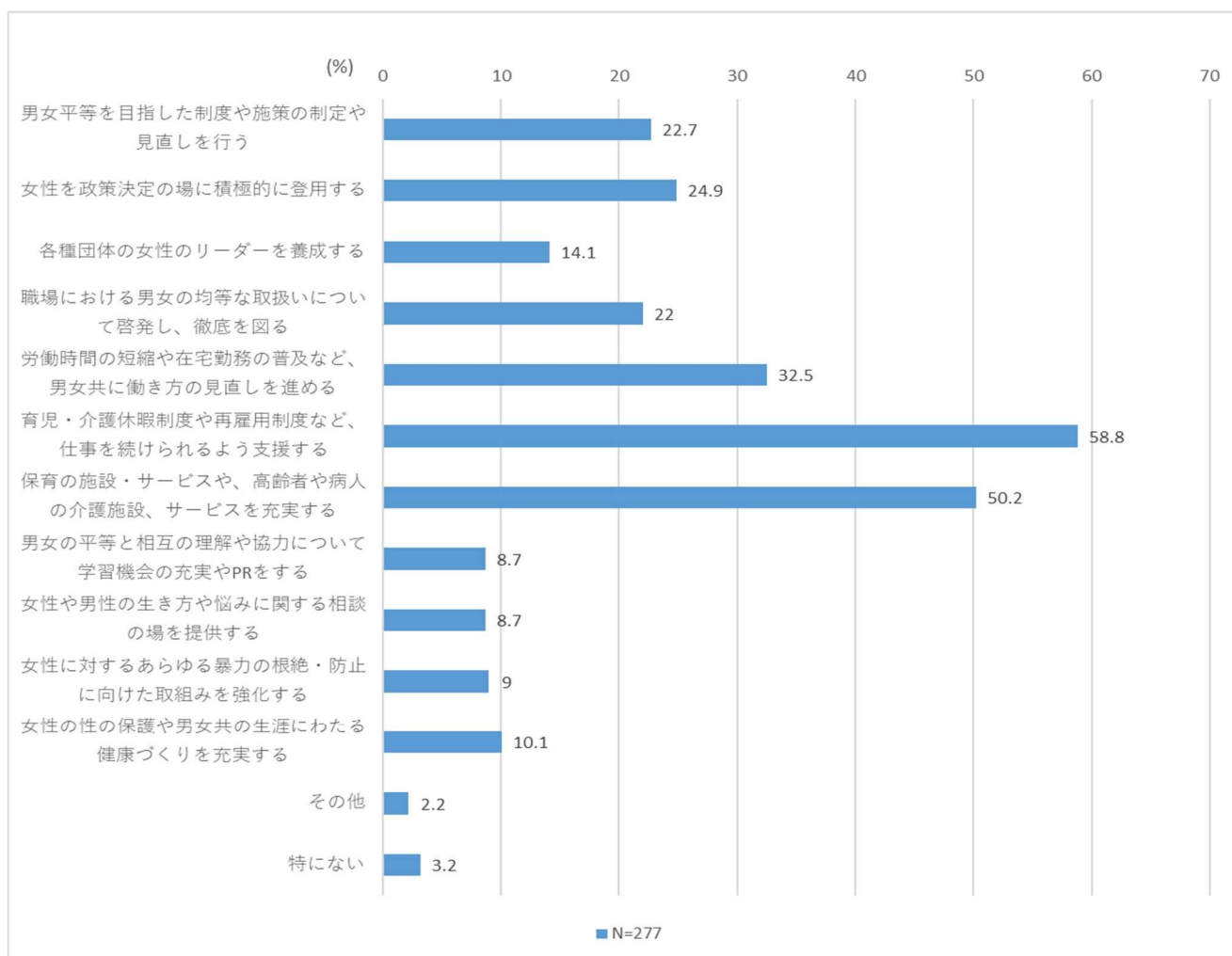
Q15. 大山崎町において、男女共同参画社会づくりをさらに推進していくためには、今後、どのようなことが求められると思いますか。

・「育児・介護休暇制度や再雇用制度など、仕事を続けられるよう支援する」が58.8%で最多。次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設、サービスを充実する」が50.2%と5割を超えています。

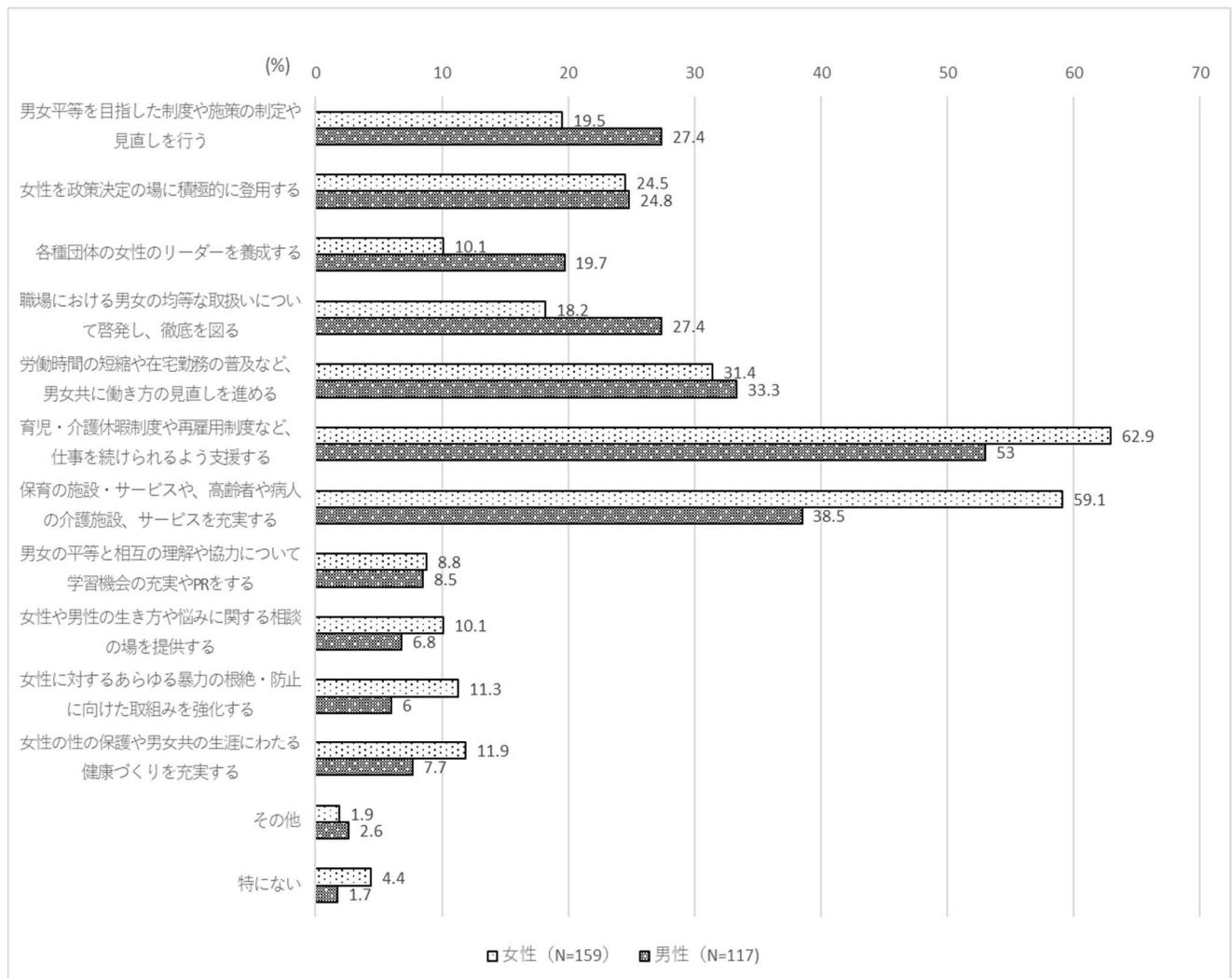
・「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が32.5%、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」が24.9%、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」が22.7%、「職場における男女の均等な取扱いについて啓発し、徹底を図る」が22%と2割を超えています。

【その他の意見】

- ・子育てに対する補助、無償化。
- ・働きたいけどどうしたらいいかわからない人や仕事をしてない人に困っていることはないかアンケート調査。 など



- ・性別では、女性において、「育児・介護休暇制度や再雇用制度など、仕事を続けられるよう支援する」が62.9%で最多。次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設、サービスを充実する」が59.1%と他の項目に比べ、圧倒的に高い結果となりました。
- ・男性において、「育児・介護休暇制度や再雇用制度など、仕事を続けられるよう支援する」が53%で最多。次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設、サービスを充実する」が38.5%でした。



6 大山崎町の男女共同参画社会づくりに関する意見

- ・男女関係なく、平和で安心できる町づくりを期待しています。一人ひとりが相手を思いやることができれば、男女の差もなくなっていくかと思います。(30代女性)
- ・男女共、お互いの意見を聞く。決めつけない。(60代女性)
- ・大きく深い問題で町の努力でカバーできないことも多くある。未来の日本がそうなことを願う。(70以上男性)
- ・わざわざ「男女」と言わず、「自由参画」にすればよいのでは。(50代男性)
- ・相談できるところがあればよい。ガマンしている人がいたらかわいそう。(60代女性)
- ・男女という意識ではなく、人間としての向上心をもつ社会を目指す。(70以上女性)
- ・問題は社会の風潮や育児負担割合が女性偏重社会意識が根強い。社会全体として行動することが必須。(40代男性)
- ・専門家による定期的な相談の場を企画してはどうでしょうか。(60代女性)
- ・男女が平等に社会で活躍するということは難しいと思います。妻が専業主婦をしてくれているので、私は仕事に集中し、子どものことも安心しています。しかし、それでは家計が成立しないというパターンも数多くあると思います。そうすると共働きということになるが、一番の不安な点は育児です。保育所や学童が整うだけで働く女性の数は増加するのではないのでしょうか。(30代男性)
- ・女性が過ごしやすく、働く女性の負担を減らしてあげてください。(40代男性)
- ・まず、自治体の管理職において、働きながら子育てをする女性の職員の登用を図ること。(50代女性)
- ・年代別で理解度が違うと思います。学校や町全体で学んだ方がよい。(40代男性)
- ・適材適所に配置して、男女関係なく雇用するべき。(70以上女性)
- ・私は学生のため、まだ社会における女性差別の実態を知りません。学校や家庭では、男女平等が当たり前の環境にいます。何なら、母親の方が年収が高いです。働いても（社会に出ても）平等が当たり前の社会でいてほしいです。(20代女性)
- ・男女共同参画社会づくりについては、社会全体で解決を図るべきものであると考えるが、大山崎町のような小さな町でできる取組みには限界があり、期待できないように感じる。特に職場に対する働きかけが効果的であると感じる。町職員にも率先して育休等を取得されることを期待したい。(30代男性)
- ・自分と未来は変えられるという意識を全町民に気付かせるべき。知育だけをし徳育をしないと賢い鬼を作ることになると両親が認識し、性別にとらわれず能力を重視すべき。(60代男性)
- ・今もまだ過渡期であると思います。子や孫の世代が大人になる頃には、リーダーの男女比や「女性をリーダーに」という声すらもなく、当たり前に男女関係なく色々なことができる世の中になってほしい。(30代女性)
- ・子育て支援を充実してほしい(20代女性)
- ・性別による仕事や役割の向き、不向きは少なからずあると思います。性別関係なく、当人たちが望む生き方、働き方を実現できる基盤づくりが求められます。そのためには、時間と金銭面のゆとりが欲しいところに着地します。(30代女性)
- ・このアンケートにも固定概念的なものを感じました。(30代女性)
- ・女性の地位が向上し、議員やリーダーを養成できるようなシステム作りを願います。(60代女性)

・町としての取組みが見えない。知らない人が多いと思う。もう少し積極的にPRし、理解を得られた方がよいと思う。(30代女性)

・男女共同参画は、手段であって目的・目標は安心安全な社会の構築では。「男女共同参画社会を目指す」ではなく、その先の安心安全な社会作りを明確にした方がよいと思う。(60代男性)

・そもそも「男女共同参画」という表現やはじめの問の性別が「男女」しかないことに人権侵害を感じます。社会は男女のみではないです。また、このように「男」「女」と分けて考える枠組み自体が、性による分業意識を助長していると思います。スタートは、「主に仕事をしている人」、「主に家事をしている人」、「仕事と家事を半分ずつしている人」等の表現であるべきでは。こうやってこともあろうに町が男女に分けて物事を考えようとするのが社会を分断し、人々に誤った社会的な性の意識を植え付けていると考えます。(30代男性)

・女性の能力や意欲のある方は、どんどん進出していくべきだと思う。男女共同参画といっても全ての人が平等を受け入れられるものではなく、能力のない人が権利だけを求めている傾向がある。(70以上女性)

・制度や施策をいくら見直しても、結局、人の心が変わらなければ難しいと思います。一人ひとりが柔軟に考えていくことが大切だと思う。(60代男性)

・保育所の保護者会の負担を減らすべき。働く時間が短い方はよいかもしれませんが、普通に働いている人にとっては大変なので、そのあたりを考慮した保育所運営をお願いします。また、学童に保護者会の行事があると聞きましたが、学童の意義をはき違えていると思います。全体的に考えが古い町だと思いました。(30代男性)

・ネットでも回答できるようにしてください。アンケート結果から行った取組みについてのアンケートを実施してほしい。(30代女性)

・PTA等の負担が大きい。(40代女性)

・みとめ愛プランはとてもよい響きであり、そのとおりだと思います。男女の関係だけではなく人と人の結びつき、人間愛が大切なことです。一人ひとりが思いやる心だと思います。(70以上女性)

・男女関係なく、自分の好きなように選択ができる環境でいればいいなと思います。(30代女性)

・保育や学童の充実、病気の際の預け先や見守りサービスなど子育て支援が充実すれば、女性も働けるし新しい考え方が根付いていく。(50代女性)

・男女共同参画を目指しても、結局は女性の意見ばかりが上がる。「おじさんキモイ」等も十分に性差別だと思う。(30代男性)

・若い人たちの町に関する協力意識は全然ない。近所の若い方もやりたい人にやらせておけばいいという雰囲気です。役場もそれで充分と思っているでしょう。(70以上女性)

・回答の難しいアンケート。(70以上男性)

・子育ても介護もあと一人大人が今ここにいてくれればいいと思うことが多いと思います。男女が平等に…を目指すのは大切です。でも『今』辛いです。夫が参画してくれないなら、女性同士でもいい。地域として、子育てをし、介護ができるコミュニティ作りができればいいなと思います。18時頃保育所へ迎えに行っても周りはほぼ女性。この現状はなかなか変わらないと思う。(40代女性)

・出産時に、特に育休・産休制度がないため、仕事を辞めました。再び仕事を探し、面接時にだいた「お子さん小さいのに熱が出たら誰かみる人いますか？」などと聞かれる。男性は聞かれないのに。また、子どもの理由(子が小さすぎるなど)により「正社員ではなくパートからはどうか」など言われたこともある。社会全体がそうなっているように感じる。ちなみにこの話は大山崎町のとあるとこ

ろで面接を受けたときに言われたことです。(40代女性)

- ・女性が自由に意見を述べられるような環境や雰囲気を確認していただきたい。(60代女性)
- ・送り迎えや通勤、祖父母のサポートなど、町内への車の出入りが多いが、町内にコインパーキングがなく、路駐を目にする。治安の悪化にもつながるため、コインパーキングの設置を検討いただきたい。(30代男性)
- ・子どもの医療費免除等、行政が担うことをやること。(70以上男性)
- ・シルバーの仕事の場を広げてほしい。デイサービスの利用だけでなく、自由に会話したり、悩み相談できる場所作りをしてほしい(60代女性)
- ・保育、介護をしている人たちの給料が安すぎる。その仕事をする人がいなくなる。(50代男性)